

xStream Portal User Guide

Document Revision: XPUG4.17.1-06

Revision Date: September 1st, 2023

【重要】

以下の記載内容ならびに画像は事前の予告なく変更の可能性があります。

NTT Communications Corporation

Copyright © NTT Communications Corporation. All rights reserved.

内容

xStream ポータル	9
本ユーザーガイドの対象	9
改訂履歴	9
商標について	16
対応 OS・ブラウザ	16
クラウドトポロジ	16
ポータルへのアクセス方法	17
お客様環境からインターネット経由でのポータルアクセス	17
お客様環境から閉域網経由でのポータルアクセス	17
2 要素認証を用いたポータルアクセス	19
xStream ポータル PIN の変更	19
ポータル操作	20
Header	20
Show / Hide	20
User Account	21
Support	21
Logout	21
Search	21
グラフの管理	21
Left Navigation Bar	22
VM Instance Grid	22
Events Grid	22
Tasks and Alarms Footer	22
Grids	23
ダッシュボード	25
Summary	25

Consumption	25
Instances	25
Events	25
クラウドリソースの確認	26
クラウドリソースアロケーション.....	26
コンピュータアロケーションの詳細.....	26
ストレージアロケーションの詳細	28
ネットワークアロケーションの詳細.....	30
ネットワーク.....	31
ネットワークグリッド	31
ネットワーク詳細	32
分析グラフ	33
分析グラフのコントロール.....	33
タイムフレーム.....	33
Zoom panel と Fine Tuner.....	33
分析グラフ Instances グリッド	34
消費レポートの生成	35
ファイル転送.....	37
GUI ファイル転送ツール.....	37
GUI ファイル転送ツールのダウンロード	37
アーカイブファイルの展開	37
GUI ファイル転送ツールの実行	37
GUI ツールを使用したファイルダウンロード	39
GUI ツールを使用したファイルアップロード	40
ログアウト.....	41
OS イメージ.....	42
コンテンツライブラリ.....	42

OS イメージの作成.....	42
OS イメージの削除.....	43
VM への変換.....	43
OS イメージの名前変更.....	43
ISO ファイル	44
ISO ファイルの削除	44
ハードウェアテンプレート.....	45
OVA	46
OVA ファイルの削除	46
VM のカテゴリ	48
カテゴリのタイプ	48
ユーザーカテゴリの作成	48
ユーザーカテゴリの編集	49
ユーザーカテゴリの削除	50
VM インスタンスの追加	51
必要なアクセス許可	51
VM 作成方法.....	51
VM プロパティ.....	52
インスタンス詳細	52
システムカテゴリとユーザーカテゴリ	53
OS and Compute	53
Storage Interfaces.....	55
OS Customization	56
Network Interfaces.....	58
Resource Groups	59
VM ポリシー	61

VM ポリシーの作成	61
VM ポリシーの編集	62
VM ポリシーから VM を作成	62
VM ポリシーの削除	63
VM の管理.....	64
VM 構成の編集	64
CPU と RAM の管理.....	65
電源状態と OS 状態の管理	65
VM インスタンスグリッドからの電源と OS 状態の管理	65
VM 詳細画面からの電源と OS 状態の管理	65
Power On.....	65
Power Off.....	65
Suspend.....	66
Shutdown OS	66
Standby	66
Reboot	66
コンソール接続	66
VM インスタンスグリッドからのコンソール接続.....	67
VM 詳細画面からのコンソール接続	67
VM の削除.....	67
削除済 VM.....	68
NIC の管理.....	69
NIC の種類	69
NIC の追加	69
NIC の編集	70
NIC の削除	70
NIC の接続と切断.....	70
ハードディスクの管理	71

ディスクの追加	71
ディスクの移動	71
ディスク容量の増加	72
SCSI コントローラの変更	72
ディスクの削除	72
ISO の接続と切断	74
ISO の接続	74
ISO の切断	74
スナップショットの管理	75
スナップショットの保持期間	75
スナップショットの作成	76
スナップショット時点への復帰	76
スナップショットの削除	77
スナップショットの全削除	77
VM の移行	78
VM のクローン	79
OVA ファイルのエクスポート	80
ハイパーバイザーツールの管理	81
Intel-TXT の管理	82
VM の名前変更	83
カタログ機能を利用したリソース作成	84
アンチアフィニティグループ	85
キーペアの管理	86
自分自身のキーペアの発行と有効化	86

自分自身のキーペアの無効化	86
他人によるキーペアの発行	87
他人が発行したキーペアの有効化	87
キーペアの確認	87
ビジネスグループの管理	88
ビジネスグループの確認	88
ビジネスグループの追加	88
ビジネスグループの編集	89
ビジネスグループの削除	89
ビジネスグループへの VM 割り当て	89
1 つの VM をビジネスグループへ割り当てる方法	89
複数の VM をビジネスグループへ割り当てる方法	90
ビジネスグループ毎のコンピュート消費量とストレージ消費量の確認	90
ユーザーアカウントの管理	91
ユーザーの作成	91
ユーザーアカウントの編集	91
ユーザーアカウントの削除	92
2 要素認証の有効化	92
2 要素認証の無効化	92
ユーザーパスワードのリセット	93
言語選択	93
アクセス許可の管理	94
ユーザーグループの管理	94
ユーザーグループの作成	94
ユーザーグループの削除	95
ユーザーグループのメンバー管理	95
マルチテナントユーザーグループ	95
リソースグループの管理	96
リソースグループの作成	97

リソースグループの削除	97
ロールの管理	97
デフォルトのロール	98
ロールの作成	98
ロールの削除	98
ロールの管理	99
ロールの割り当ての管理	99
ロールの割り当て	100
カスタムアクセス許可のシナリオ	101
シナリオ 1: ユーザーに対して、すべての VM に対する読み取りのアクセス許可を付与	101
シナリオ 2: ユーザーに対して、特定の VM に対する起動・停止のアクセス許可を付与	104
シナリオ 3: ユーザーに対して、特定の VM に対するコンソールアクセスのアクセス許可を付与	108
アクションログ	112
xStream スケジューラ	113
スケジュールされたアクションの管理	113
スケジュールされたアクションの表示	113
スケジュールされたアクションの追加	113
スケジュールされたアクションの削除	115
ポータルサポート	116

xStream ポータル

xStream ポータルは、当社が提供するクラウドマネジメントインターフェースです。お客様は、xStream ポータルを利用し、仮想データセンターを運用いただけます。

お客様組織とは、本サービスの利用者です。本ユーザーガイドでは、お客様組織のコンポーネント管理、xStream ポータルユーザーと権限の管理、仮想マシン(Virtual Machine, VM)の作成と管理、リソース消費情報の参照とエクスポート、xStream ポータルのサポートへのコンタクト方法について記載します。

本ユーザーガイドの対象

本ユーザーガイドは、本サービスと xStream ポータルについて理解を深めたいシステム管理者を対象としています。xStream ポータルは英語版の画面を想定しています。また、本ユーザーガイドの読者は、サーバー仮想技術とデータセンター運用に精通していることを想定しています。

改訂履歴

以下は、本ユーザーガイドの改訂履歴です。

Document Revision: XPUG4.4.0-01- Release Date: August 22, 2017

- 初版リリース

Document Revision: XPUG4.4.0-02- Release Date: September 6, 2017

- アクセス許可に関する記載を追加
- IP ホワイトリストの記載を削除

Document Revision: XPUG4.4.0-03- Release Date: January 25, 2018

- VM のクローンに関する誤記修正

Document Revision: XPUG4.4.0-04- Release Date: February 22, 2018

- レポート機能に関する記載を追加

Document Revision: XPUG4.4.0-05- Release Date: May 10, 2018

- パスワードポリシーに関する記載を追加
- ファイルアップロード・ダウンロードの制約に関する記載を追加
- ハイパーバイザーツールに関する記載を追加
- バッチモードを利用した VM 作成に関する記載を追加

Document Revision: XPUG4.4.0-06- Release Date: July 1, 2018

- キーペア機能に関する記載を追加

Document Revision: XPUG4.4.0-07- Release Date: August 8, 2018

- Baseline、Limit 等の変更方法に関する記載を修正
- ファイルアップロードに関する注意事項を追加

Document Revision: XPUG4.4.0-08- Release Date: October 19, 2018

- フォント、および表等の整形

Document Revision: XPUG4.9.0-01- Release Date: May 12, 2019

- 全般的な GUI デザインの変更
- グラフの管理機能の強化
消費 μ VM グラフの過去月表示機能等が利用可能になります
- GUI ファイル転送ツールの提供
既存の CLI ファイルツールより直感的な操作が可能となります
- VM タグ機能の廃止と後継のカテゴリ機能の提供
VM タグと同等の機能がカテゴリ機能で提供されます
- NIC のタイプ変更方法の変更
NIC の編集から NIC の種類を変更することができなくなり、NIC の削除と新規作成によって対応いただく仕様に変更となります
- 用語の変更

「Baseline」から「Commit」に変更

「VM テンプレート」から「OS イメージ」に変更

「OS テンプレート」から「OS カスタマイゼーション」に変更

Document Revision: XPUG4.9.0-02- Release Date: May 20, 2019

- パスワード変更に関する記載を修正
- セキュリティプロトコルに関する注意事項を追記

Document Revision: XPUG4.9.0-03- Release Date: October 1, 2019

- CLI ファイル転送ツールの記載削除
- ライセンス付き OVA ダウンロードに関する注意事項を修正
- Windows OS の DNS 設定に関する注意事項を追記
- コンソール接続のクライアント環境に関する注意事項を追記
- VM インスタンス追加時の OS イメージ名に関する注意事項を追記
- VM インスタンス追加時のストレージプロファイル名に関する注意事項を追記

Document Revision: XPUG4.9.0-04- Release Date: November 1, 2019

- カスタムアクセス許可のシナリオを修正
- CPU、Memory の HotAdd に関する注意事項を修正

Document Revision: XPUG4.9.0-05- Release Date: December 2, 2019

- OVA ファイルダウンロードに関する注意事項を追加
- カテゴリの値に関する制約を追加
- バッチモードを利用した VM 作成の例を追加
- 電源操作に関する注意事項を追加

Document Revision: XPUG4.15.0-01- Release Date: September 7, 2020

- 全般的な GUI デザインの変更
- 2 要素認証によるポータルログイン機能の提供
2 要素認証によるポータルログイン機能が利用可能になります

- 分析グラフ機能の提供
消費 μVM グラフの過去月表示機能が利用可能になります
- VM ポリシー機能の提供
「VM プロパティの定義体」を保存する機能が利用可能になります
- 削除済 VM 機能の提供
削除した VM を最大 1 日間保管しておく機能が利用可能になります
- ファイル転送機能の強化
プロキシ経由のファイル転送が可能となります
- OS カスタマイゼーション機能の強化
OS type : Windows、RHEL で RunOnce Script が利用可能になります
- VM の移行機能の強化
異なるオフラインへの VM の移行が可能となります
- スナップショットの保持期間の設定
スナップショットの保持期間が設定されます
- ビジネスグループの管理機能の強化
1 つのビジネスグループへ複数 VM を同時に割り当てする事が可能となります
- 対応ブラウザの仕様変更
対応ブラウザが変更されます
- 消費グラフ表示期間の変更
消費グラフ表示期間が変更されます
- 消費レポートの仕様変更
提供される消費レポート、レポートの内容が変更となります
- 用語の変更
「Toggle Tool Panel」から「Columns」に変更
- vSphere Hot Tools 機能の廃止
vSphere Hot Tools 機能が廃止されます

Document Revision: XPUG4.15.0-02- Release Date: October 30, 2020

- VM インスタンス追加時の [Storage Profile] 選択プルダウンに関する説明を追加

Document Revision: XPUG4.15.0-03- Release Date: Novemer 30, 2020

- GUI ファイル転送ツールのサポートについて追記
- 新規 VM 作成時に選択できるハードウェアテンプレートに関する制約を追記

Document Revision: XPUG4.15.0-04- Release Date: March 1, 2021

- グラフのデータに関する注意事項を追記
- 消費レポートのデータに関する注意事項を追記
- Microsoft SQL Server OS イメージに関する制約を追記
- OS カスタマイゼーションに関する制約を追記
- DR Setup 済みの VM について VM の移行に関する制約を追記

Document Revision: XPUG4.15.0-05- Release Date: June 1, 2021

- ディスクのストレージプロファイルの変更に関する制約を追記
- VM の構成ごとに利用可能なストレージプロファイルに関する注意事項を追記
- ディスクの移動に関する記載を修正
- 本サービスで提供する標準消費レポートのレポート名、概要の一覧を追加

Document Revision: XPUG4.15.0-06- Release Date: August 1, 2021

- グラフのデータに関する注意事項を追記、修正
- 消費レポートのデータに関する注意事項を追記、修正

Document Revision: XPUG4.15.0-07- Release Date: Octorber 4, 2021

- 消費レポートのデータに関する注意事項を追記

Document Revision: XPUG4.15.0-08- Release Date: November 1, 2021

- 1 要素認証によるポータルログイン機能の廃止に伴う修正

Document Revision: XPUG4.17.1-01- Release Date: January 24, 2022

- 全般的な GUI デザインの変更
- 対応ブラウザの仕様変更
対応ブラウザが変更されます
- サポートする言語の変更
サポートする言語から韓国語が廃止されます
- OS カスタマイゼーション機能の変更
OS カスタマイゼーションを保存および適用する機能が廃止されます
- ユーザーグループ機能の変更

- デフォルトで提供されるユーザーグループが変更されます
- リソースグループ機能の変更
デフォルトで提供されるリソースグループが変更されます
リソースグループのメンバー管理機能が廃止されます
- ロールの管理機能の変更
各ロールに許可されている Action が変更されます
- 組織のアクセス機能の廃止
お客様組織のアクセス制御リストが表示される組織アクセス画面が廃止されます
- VM の管理機能の強化
VM の詳細画面で Snapshot の取得可否を選択する機能が利用可能になります
- 2 要素認証によるポータルログイン機能の変更
ユーザーが 11 回以上ログインに失敗した場合に、自動的に 2 要素認証が無効化されます
- バッチモードを用いた VM 作成機能の廃止
バッチモードを用いた VM 作成機能が廃止されます
- ポータル操作機能の強化
一定時間ポータル操作をしなかった際に、セッション Timeout を警告するポップアップ表示されます
- キーペアの管理機能の強化
キーペアの無効化機能が利用可能になります
- マルチテナントユーザーグループ機能の追加
複数テナントを管理されるお客様向けのユーザーグループ機能が利用可能になります
- スケジュール機能の強化
スケジュールの履歴を確認する機能が利用可能になります
- スケジュール追加時に設定できる項目が追加されます

Document Revision: XPUG4.17.1-02- Release Date: March 1, 2022

- ディスクの追加に関する注意事項を追記

Document Revision: XPUG4.17.1-03- Release Date: April 1, 2022

- アクションログの表示可能期間を追記

Document Revision: XPUG4.17.1-04- Release Date: July 1, 2022

- クローン取得時の注意事項を追記

Document Revision: XPUG4.17.1-05- Release Date: May 15, 2023

- SCSI コントローラ変更機能リリースに伴う修正

Document Revision: XPUG4.17.1-06- Release Date: September 1, 2023

- xStream ポータルの閉域網接続化に伴う修正

商標について

- Virtustream, Virtustream μVM、その他の Virtustream 製品の名称および製品名は、米国 Virtustream の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft、Windows、その他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- VMware および VMware の製品名は、VMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。
- その他記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。
- 記載されている製品名等には、必ずしも商標表示((R),TM)を付記しておりません。

対応 OS・ブラウザ

xStream ポータルへのアクセスにはインターネットブラウザが必要です。下表は、対応する OS とブラウザの組み合わせです。

対応 OS	対応ブラウザ
Windows 10	Edge85, Chrome 85, Firefox 80 以降
Mac OS 10.15.1	Safari 14, Edge 85, Chrome 85, Firefox 80 以降

クラウドトポロジー

本サービスは、プライマリーデータセンターとして東京 DC、DR 専用のセカンダリーデータセンターとして関西 DC が利用可能なマルチサイト型のトポロジーを提供します。

ポータルへのアクセス方法

お客様環境からインターネット経由でのポータルアクセス

本サービスにおけるポータル URL は下記となります。

Note: セキュリティプロトコルは TLS1.2 以上をご使用ください。

- プライマリーサイト : <https://console-v-jp1.ecl.ntt.com/>
- セカンダリーサイト : <https://console-v-jp2.ecl.ntt.com/>

お客様環境から閉域網経由でのポータルアクセス

お客様環境から閉域網経由で xStream ポータルへアクセスするためには、Enterprise Cloud 2.0 Connect または Fiber Cross Connect Port が必要です。Enterprise Cloud 2.0 Connect および Fiber Cross Connect Port の詳細については、サービス説明書「第 2 編 Network」をご参照ください。

お客様には、xStream ポータルへアクセスするテナントの Internal Zone または DMZ Zone のセグメントから、xStream ポータルに付与する IP アドレスをご指定いただきます。オーダーシートでお申込みいただき、当社にて設定いたします。

ご指定いただく IP アドレス数は以下の表の通りです。

	パターン	①	②	③	④	⑤	⑥
ご利用環境	テナント数	1	1	複数	複数	複数	複数
	お客様環境から本サービスへの接続ネットワーク数	1	1	1	1	複数	複数
	DR構成のご利用	なし	あり	なし	あり	なし	あり
ご指定いただく IP アドレス数		1	2	1	2	接続NW数×1	接続NW数×2

当社にて設定後、お客様にて下記の作業を実施いただくことで、xStream ポータルへアクセスできます。

- I. お客様環境の内部 DNS サーバー、もしくはオペレーション端末の hosts ファイルに xStream ポータルのレコード登録。
ご登録いただく xStream ポータルの FQDN は下記の通りです。
プライマリーデータセンター側 : <https://console-v-jp1.edl.ntt.com/>
セカンダリーデータセンター側 : <https://console-v-jp2.edl.ntt.com/>
- II. お客様環境のネットワーク（主に Firewall）において、Enterprise Cloud 2.0 Connect または Fiber Cross Connect Port 経由で xStream ポータルへアクセスするための許可設定。

Note: DR 構成における xStream ポータルへのアクセスについて

- DR 構成において、本サービスの仕様として、本サービス側の終端装置はプライマリーデータセンターとセカンダリーデータセンターでルーティングテーブルを共有します。そのため本サービス側の終端装置に設定するスタティックルートは、原則プライマリーデータセンターとセカンダリーデータセンターで同じ設定値としていただいております。詳細については、サービス説明書「第2編 Network」をご参照ください。
- 上記の前提において、プライマリーデータセンターを宛先とし、プライマリーデータセンターの Landing Zone から入る通信、ならびにセカンダリーデータセンターを宛先とし、セカンダリーデータセンターの Landing Zone から入る通信は正常に転送されます。一方で、プライマリーデータセンターを宛先とし、セカンダリーデータセンターの Landing Zone から入る通信、ならびにセカンダリーデータセンターを宛先とし、プライマリーデータセンターの Landing Zone から入る通信は ICMP を除きドロップされます。
- Virtual Router メニューをご利用いただいている場合も同様です。
- 上記仕様をふまえ、お客様のご要件に合わせて xStream ポータルを宛先とする通信の経路をコントロール頂けますようお願いいたします。

2 要素認証を用いたポータルアクセス

xStream ポータルへのログイン方法は、2 要素認証(ユーザー名、xStream ポータル PIN、ワンタイムパスコード)となります。

2 要素認証とは、2 つの独立した認証方法を利用することで、システムセキュリティの信頼性を高める認証方式です。

本サービスでは、2 要素認証に必要となる ワンタイムパスコード(OTP) の生成のため、Google 社の 2 要素認証アプリ(Google Authenticator)を利用します。お客様は xStream ポータルにログインする前に、xStream ポータル PIN とセキュリティトークンの設定を行う必要があります。セキュリティトークンの設定には、Google Authentication をインストールしたモバイルデバイスが必要です。具体的なセキュリティトークンの設定手順は、xStream ユーザーアカウントに対して 2 要素認証の有効化が行われたときに送信される「[Enterprise Cloud for ERP]2 要素認証の有効化」メールに記載されています。

1. xStream ポータルのサインインダイアログボックスで、ユーザー名または電子メールアドレスを入力し、[Next]を選択します。
2. 次の画面で、xStream ポータル PIN とセキュリティトークンで生成された OTP を入力します。
3. デフォルトの言語を変更する場合は、[Locale]ドロップダウンメニューから言語を選択します。選択した言語を次のログイン時のデフォルトとして使用することもできます。
4. [login]を選択します。

xStream ポータル PIN の変更

ユーザーは xStream ポータル PIN を変更することができます。

1. ヘッダーの右上隅にあるユーザー名を選択して、[My Account]画面を開きます。
2. 現在の xStream ポータル PIN を入力し、新しい PIN を入力して確認します。
3. [Change PIN]を選択します。

ポータル操作

xStream ポータルのヘッダーのリンクとメニュー、および左ナビゲーションバーについて説明します。

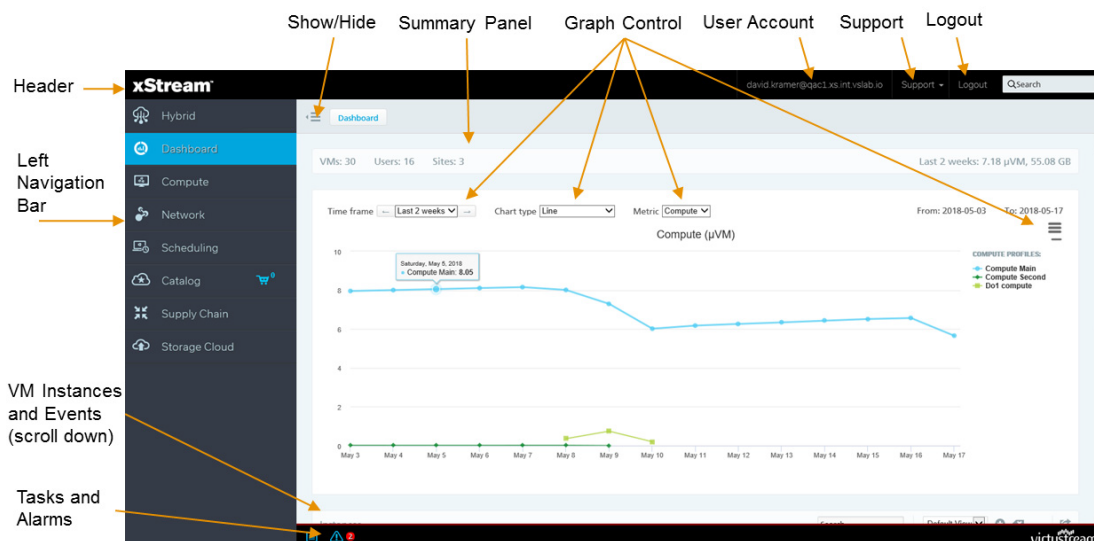


Figure : [ダッシュボード]画面

Note: 25 分以上ポータル操作をしなかった際に、5 分後にセッションが Timeout することを警告するポップアップが表示されます。

Note: 操作が失敗した際にエラー画面が表示されます。エラー画面からのチケット起票機能は提供しません。使用しないでください。

Header

画面の上部に表示される[Header]には、左側にナビゲーションリンク、右側にリンクとメニューオプションがあります。ヘッダーオプションは静的です。xStream ポータル内のさまざまなモジュールに移動しても変更されません。

Show / Hide

[Show / Hide]アイコンを選択すると、左ナビゲーションバーの表示が、アイコンとラベルの両方表示と、アイコンのみ表示で切り替わります。

User Account

[User Account]を選択して[User Account]画面を開き、アカウント詳細を表示や、パスワードまたは xStream ポータル PIN の変更ができます。

Support

[Support]メニューでは、ファイル転送ツール（ファイルダウンロードツールおよびファイルアップロードツール）のダウンロードと、サポートサイト（チケット起票画面）のリンクがご利用いただけます。

Logout

[Logout]オプションでは、ポータルのセッションを終了できます。

Search

[Search]オプションには、入力した検索条件が名前に含まれる xStream ポータル内のすべての VM、OS イメージおよびネットワークが表示されます。検索では大文字と小文字は区別されず、ワイルドカード文字は必要ありません。これは、検索条件がリソース名に含まれれば検出されるためです。検索結果内の VM またはネットワークを選択して、そのリソースに移動します。

グラフの管理

ダッシュボード画面、ならびに VM グリッドのコンピュートとストレージの消費グラフにおいて、ドロップダウンリストを使用してタイムフレーム、チャートタイプ、メトリックを管理できます。また、右上部にある 3 つのバーのアイコンから複数のファイルタイプでグラフをエクスポートすることが可能です。

管理項目	値
タイムフレーム	過去 2 週間、過去 31 日間、過去 12 か月のうち 1 か月
チャートタイプ	線グラフ、層グラフ、棒グラフ、積み上げ棒グラフ
メトリック	コンピュート、ストレージ
グラフの出力	PNG 画像、SVG ベクタ画像、JPEG 画像、CSV ファイル

Note: グラフに表示される μVM の消費量について、当日の値は、2 日後の 9:00(JST)に確定します。確定するまでは概算値が表示されます。ストレージの消費量については、6 時間前のデータをもとに算出された値が表示されます。

Left Navigation Bar

[Left Navigation Bar](左ナビゲーションバー)は、xStream ポータルで利用可能なオプションの上位レベルのカテゴリが表示されます。各項目には、特定の機能やアクティビティに関するオプションが含まれます。たとえば、Compute 項目には、VM のプロビジョニングと管理に関連するすべてのオプションが含まれます。

VM Instance Grid

利用可能な VM カラムが固定された VM グリッドが、グラフの下部に表示されます。

検索オプションを使用したグリッドのフィルターや、カスタムの表示ビューを作成・管理をすることができます。すべての内容を確認するには下へスクロールします。

Note: OS カラムに表示される OS バージョンと、VM の実際のゲスト OS バージョンは一致しない場合があります。ご利用上、問題はございません。

Events Grid

テナント内のイベントを表示するグリッドがダッシュボード画面に現れます。すべての内容を確認するには下へスクロールします。

Tasks and Alarms Footer

画面下部の「タスクとアラーム」フッターには、ユーザーが開始したアクション（タスク）の結果と例外条件（アラーム）の通知が表示されます。タスクはフッターに表示され、約 5 分間表示されます。報告されている例外条件が解決されると、画面のこの領域で報告されたアラームは消えます。

各アイコンの横に表示される数字は、表示可能なタスクまたはアラームの数を示します。この番号は、ユーザーがサインインするたびにリセットされます。

フッターを展開するには、タスクアイコンまたはアラームアイコンを選択します。展開したら、フッターのサイズを変更できます。フッターを閉じるには、もう一度アイコンを選択します。

タスクパネルのエラーアイコンにカーソルを合わせると、タスクのエラーメッセージが表示されます。

Grids

xStream 内の多くの画面にはグリッド（表）が含まれています。グリッド内の情報は、ソート、フィルタリング、およびエクスポートすることができます。UI に表示される特定のグリッド（例：Assign VMs & Templates、Allocations、VM Instances）では、スプレッドシートに列フィルターを適用するのと同じように、列単位でフィルタリングできます。

Columns: 各グリッドにはデフォルトの情報が含まれていますが、追加の情報が利用できる場合があります。グリッドに表示する特定の情報を選択するには、列の表示/非表示オプションを選択します。

Sort: 列のヘッダーをクリックすると、該当列の内容を基に昇順にグリッド情報をソートできます。列のヘッダーをもう一度クリックすると、降順で並べ替えることができます。Shift キーを押しながら追加の列をクリックすることで、第 2 レベルまたは第 3 レベルのソートを実行します。

Filter: 一部のグリッドの列は、列単位でフィルタリングが可能です。列のヘッダーにある 3 つのバーをクリックすると、ユーザーはその列をフィルターに掛けることができます。複数の列にフィルターを適用することも可能で、その場合は累積的にフィルターが適用されます。

Serch: グリッドの右上隅にある検索オプションを使用して、入力した条件に基づいてグリッドの内容全体をフィルタリングします。つまり、検索フィールドに入力されたテキストは、グリッドのすべての列のデータと照合されます。検索では大文字と小文字は区別されず、ワイルドカード文字は必要ありません。検索オプションは、列のフィルタリングに加えて使用できます。

グリッドビューの選択/カスタマイズ: VM インスタンス、ユーザー、イベントなどの一部の共通的に利用されるグリッドでは、カスタマイズされたビューを作成・保存することができます。

す。検索オプションの右にあるドロップダウンリストから過去作成・保存したグリッドのビューが確認できます。ドロップダウンリストから利用したいビューを選択してください。

カスタムグリッドビューの作成: Columns、検索オプションやフィルターなどの管理機能を使用してカスタムのビューを作成し、[+]アイコンをクリックします。新しいグリッドビューに名前を付け、[Save]をクリックします。新しいグリッドビューは、グリッドビューのドロップダウンリストに表示されます。

カスタムグリッドビューのリネーム/削除: リネームまたは削除したいビューをグリッドビューのドロップダウンリストから選択します。歯車アイコンがリストの右に表示されます。歯車アイコンをクリックし、[Rename]または[Delete]を選択します。リネームをするには、新しい名前を入力し[Save]をクリックします。削除をするには、[Delete]をクリックします。削除する際、確認画面は表示されないため、慎重に実施してください。なお、デフォルトビューは削除できません。

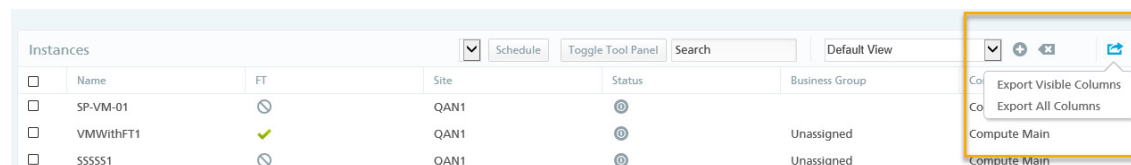
グリッドビューのクリア: カスタマイズをクリアしたい場合、[+]アイコンの右にある[X]アイコンをクリックしてください。



Name	Hostname	S...	OS	Primary IP	Current CPU (M...	Current RAM (GB)	Billable	Actions
LPwin-NIC-dns	LPwin-NIC-dns1	🟢	Microsoft Windo...	10.191.10.189	22	1.49	🔒	⚙️ 🗑️
DNS	DNS	🟢	Microsoft Windo...	10.191.10.134	22	1.48	✓	⚙️ 🗑️
DNS(1)	DNS1	🟢	Microsoft Windo...	fe80::49e6:70f8:e...	22	1.50	✓	⚙️ 🗑️

Export: 検索オプションの右側にあるエクスポートオプションは、現在グリッドに表示されている情報を CSV ファイルにエクスポートします。グリッドをフィルタリングした場合は、グリッド内のすべての行ではなく、フィルター後の結果がエクスポートされます。エクスポート中に、ファイル名と保存場所を入力します。

グリッドをエクスポートするには[Export]アイコンをクリックします。[Export All Columns]または、現在のビューで表示されているカラムだけをエクスポートする[Export Visible Columns]を選択します。



<input type="checkbox"/>	Name	FT	Site	Status	Business Group
<input type="checkbox"/>	SP-VM-01	🔒	QAN1	🟡	
<input type="checkbox"/>	VMWithFT1	✓	QAN1	🟡	Unassigned
<input type="checkbox"/>	SSSSS1	🔒	QAN1	🟡	Unassigned

ダッシュボード

xStream ポータルにログインすると、ダッシュボード画面が表示されます。ダッシュボード画面には、サマリーモジュール、消費量グラフモジュール、VM インスタンスグリッドおよびイベントモジュールが含まれます。

サマリーモジュールの下にカタログ承認者パネルが表示されますが、本サービスでは使用しません。

Summary

サマリーパネルには、VM の総数、ユーザーの総数、および環境内のサイト総数が表示されます。過去 2 週間のコンピュートとストレージ消費量の値が、本モジュールの右部に表示されます。

Consumption

消費パネルには、すべての VM のプロファイルごとのコンピュート消費量グラフが μ VM 単位で表示されます。グラフの管理機能を使用して、タイムフレーム、チャートタイプ、メトリクスを選択可能です。

デフォルトでは、すべてのプロファイルがグラフに表示されます。プロファイルが複数ある場合は、グラフを変更して特定のプロファイルのみを表示することができます。凡例で、プロファイル名をクリックして除外または追加します。現時点の消費量を表示するには、グラフのあるポイントにカーソルを合わせます。

Instances

ダッシュボードの Instances グリッドには、お客様組織の VM が表示されます。

Events

イベントモジュールには、発生したイベントが最大 100 件まで表示されます。

クラウドリソースの確認

クラウドリソースには、リソースアロケーション、ネットワーク、およびボリュームが含まれます。

クラウドリソースアロケーション

新規 VM 作成時や既存 VM の設定変更時に、使用可能なコンピュータ、ストレージ、ネットワークリソースがプロファイルとして表示されます。プロファイルとは、リソースに関する記述です。

当社は、組合せて使用されるべきリソースをオフリングにまとめて提供します。さまざまなタイプのワークロードに対応するために、複数のオフリングが提供される場合があります。オフリングには、各カテゴリ（ストレージ、ネットワーク、コンピュータ）毎に 1 つまたは複数のプロファイルが含まれます。

リソースアロケーションは、特定のサイト上のリソースタイプ（プロファイル）の割り当て量です。（例えば、プライマリ DC 上の Tier2 ストレージ 8TB）

リソースアロケーションは、[Supply Chain]ノードの[Allocations]画面に表示されます。

Supply Chain

Allocations

Allocation-2	Compute	NR-fake-10	QAN1		Unlimited	0 μVM
n2 h44 sha...	Storage	shared stor...	qan2		100 GB	68 GB
n3 h44 sha...	Storage	shared stor...	QAN3	qan3	100 GB	65 GB
n1 h44 sha...	Storage	shared stor...	QAN1		450 GB	0 GB
Allocation-1	Compute	NR-fake-7	QAN1		Unlimited	0 μVM
Allocation-1	Compute	NR-fake-9	QAN1		Unlimited	0 μVM

Figure: [Allocations]画面

コンピュータアロケーションの詳細

コンピュータアロケーションの詳細画面には、該当アロケーションのサマリー、消費量グラフ、アロケーション内の VM を表示するグリッドが含まれています。

1. 左ナビゲーションバーから[Supply Chain] > [Allocations] を選択します
2. コンピュータアロケーションを選択して、該当アロケーションのサマリーと、アロケーション内の VM 詳細の画面を開きます。

コンピュータロケーションの Allocation Summary パネル

サマリーパネルは、アロケーションのプロパティを表示します。

Name: アロケーション名です。

Profile Type: リソースのカテゴリです。

Profile: アロケーションの所属するプロファイルです。

Site: アロケーション内の VM が属する DC ロケーションです。

Limit: Limit は、アロケーション内で VM が消費できる最大の μ VM 数です。当社がアロケーションを作成する際に設定します。Limit を変更する場合は、当社へオーダーシートにてお申込みください。

Commit: Commit は、該当 Site でお客様が購入をコミットしている μ VM の数です。すべてのアロケーションに Commit があるわけではありません。Commit を変更する場合は、当社へオーダーシートにてお申込みください。

Burst: 本サービスでは使用しません。

Usage: Usage は、コンピュータロケーション内の VM が現在の請求期間において消費した μ VM の数です。

Remaining: Remaining とは、現在の請求期間において Limit 値と比較した場合に、アロケーションに残っている μ VM 数です。コンピュータリソースに Limit が設定されていない場合、残りの μ VM 数は表示されません。

Tags: 当社がアロケーションに対してタグを設定した場合、ここに表示されます。

Allocation Summary	
Name	Allocation-Main
Profile Type	Compute
Profile	Compute Main
Managed	Disabled
Site	QAN1
Limit	Unlimited
Commit	10 μ VM
Burst	15 μ VM
Usage	4 μ VM
Remaining	-
Tags	

Figure : コンピュータロケーションの[Allocation Summary]パネル

コンピュータロケーションの Consumption Graph パネル

消費パネルには、このアロケーションを使用して構成されるすべての VM インスタンスのコンピュータ消費量グラフが μ VM 単位で表示されます。割り当て消費グラフのグラフコントロールは、他の消費グラフと同様です。

Instances

Instances グリッドには、このアロケーションを使用して構成されているすべての VM インスタンスが表示されます。

ストレージアロケーションの詳細

ストレージアロケーションの詳細画面には、該当アロケーションのサマリー、消費量グラフ、アロケーション内の VM を表示するグリッドが含まれています。

1. 左ナビゲーションバーから[Supply Chain] > [Allocations] を選択します。
2. アロケーションを選択して、該当アロケーションのサマリーと、アロケーション内の VM 詳細の画面を開きます。

ストレージアロケーションの Allocation Summary パネル

サマリーパネルは、アロケーションのプロパティを表示します。

Name: アロケーション名です。

Profile Type: リソースのカテゴリです。

Profile: アロケーションの所属するプロファイルです。

Site: アロケーション内の VM が属する DC ロケーションです。

Limit: Limit は、アロケーションを構成するデータストアの合計容量です。Limit を変更する場合は、当社へオーダーシートにてお申込みください。

Commit: 本サービスでは使用しません。

Burst: 本サービスでは使用しません。

Usage: Usage は、ストレージアロケーション内の VM が現在の請求期間で消費した容量[GB]です。

Remaining: Remaining とは、現在の請求期間において Limit 値と比較した場合に、アロケーションに残っている容量[GB]です。

Tags: 当社がアロケーションに対してタグを設定した場合、ここに表示されます。

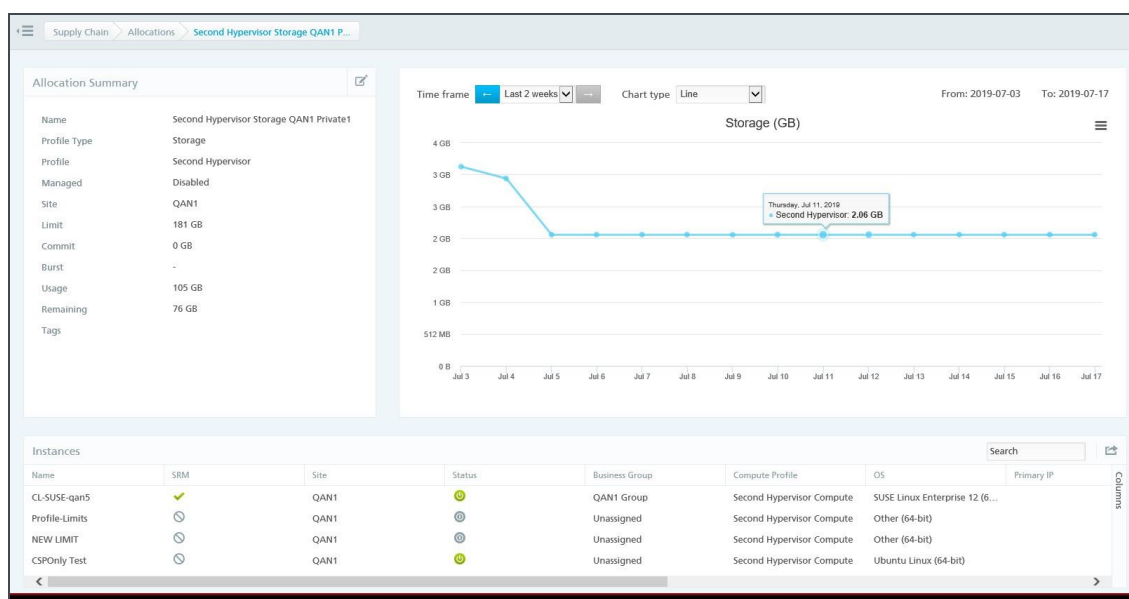


Figure: ストレージアロケーションの[Allocation Summary]パネル

ストレージアロケーションの Consumption Graph パネル

消費パネルには、このアロケーションを使用して構成されるすべての VM インスタンスのストレージ消費量グラフが GB 単位で表示されます。割り当て消費グラフのグラフコントロールは、他の消費グラフと同様です。

Instances

Instances グリッドには、このアロケーションを使用して構成されているすべての VM インスタンスが表示されます。

ネットワークアロケーションの詳細

ネットワークアロケーションの詳細画面には、該当アロケーションのサマリー、アロケーション内の VM を表示するグリッドが含まれています。

1. 左ナビゲーションバーから[Supply Chain] > [Allocations] を選択します
2. ネットワークアロケーションを選択して、詳細画面を開きます

ネットワークアロケーションの Allocation Summary パネル

サマリーパネルは、アロケーションのプロパティを表示します。

Name: アロケーション名です。

Profile Type: リソースのカテゴリです。

Profile: アロケーションの所属するプロファイルです。

Site: アロケーション内の VM が属する DC ロケーションです。

Limit: Limit は、アロケーションを構成するネットワークグループの合計数です。追加のネットワークが必要な場合は、当社へオーダーシートにてお申込みください。

Usage: Usage は、アロケーション内の使用中ネットワークの合計数です。

Remaining: Remaining は、ネットワークアロケーションには適用されません。

Tags: 当社がアロケーションに対してタグを設定した場合、ここに表示されます。

Allocation Summary							
Name	Bronze Network ManagedNetwork QAN3 Private1						
Profile Type	Network						
Profile	Bronze Network						
Managed	Disabled						
Site	QAN3						
Limit	Unlimited						
Usage	Unlimited						
Remaining	N/A						
Tags							

Instances							
Name	Site	Status	Business Group	Compute Profile	OS	Primary IP	Network
QAN3-vm01	QAN3	●	Unassigned	Profile_XSTREAM-9510	Other (64-bit)		QAN3-PG-03
LPwin	QAN3	●	Unassigned	Bronze Compute	Red Hat Enterprise Linux 7...	10.192.10.33	QAN3-PG-01
VM-Cent-057	QAN3	●	Unassigned	Bronze Compute	CentOS 4/5 or later (64-bit)		QAN3-PG-01
Expand-vm-2	QAN3	●	Unassigned	Bronze Compute	CentOS 4/5 or later (64-bit)		QAN3-PG-01
NR-OVA-many-dn	QAN3	●	Unassigned	Bronze Compute	CentOS 4/5 or later (64-bit)	fe80::44d:e680:e11b:656e	QAN3-PG-01
AZA-Empty-VM	QAN3	●	Unassigned	Bronze Compute	Other (64-bit)		QAN3-PG-01

Figure: ネットワークアロケーションの[Allocation Summary]パネル

Instances

Instances グリッドには、このアロケーションを使用して構成されているすべての VM インスタンスが表示されます。

ネットワーク

ネットワークは当社が設定して提供します。追加のネットワークが必要な場合は、当社へオーダーシートにてお申込みください。

ネットワークグリッド

ネットワークグリッドには、ネットワーク名、ネットワーク ID、ネットワークが稼働しているサイト、ネットワークプロファイル、ゲートウェイアドレスが表示されます。

1. 左ナビゲーションバーで[Network]を選択すると、すべてのネットワークが表示されます。

Network Name	Network ID	Site	Network Profile	Gateway Address
H01LTL38XPG001	H01LTL38XPG001	QAN3	External Ntw	10.12.13.1
H01LTL38XPG002	H01LTL38XPG002	QAN3	AppDirector Networks	10.193.136.2
H01LTL38XPG003	H01LTL38XPG003	QAN3	External Ntw	10.12.196.117

Figure: [ネットワークグリッド]パネル

ネットワーク詳細

ネットワーク詳細画面には、ネットワークが稼働しているサイト、ゲートウェイのアドレス、サブネット、DNS 1、DNS 2、および DNS Suffix のプロパティを表示します。右側ネットワーク割り当てセクションには、ネットワーク上の VM と IP アドレスの割り当てが表示されます。

1. 左ナビゲーションバーから[Networks]を選択します。
2. ネットワークをクリックして、該当ネットワークの[Network Details]画面を開きます。

Note: DNS および Usable IP Range の変更は実施しないでください。変更したい場合は当社へオーダーシートにてお申込みください。

Network Details		Network Assignments	
Name*	<input type="text"/>	VM Instance	VM Hostname
Description	<input type="text"/>	IP Address	NAT Association
Site	JPDC2	No data available in table	
Network Profile	Virtual Network Infrastruc		
Gateway			
Subnet			
DNS 1	<input type="text"/>		
DNS 2	<input type="text"/>		
DNS Suffix	<input type="text"/>		
Usable IP Range			
IP Address			
No data available in table			

Figure: [Network Details]画面

分析グラフ

分析グラフは、μVM のどのコンポーネントが消費コストを押し上げているかを可視化します。分析グラフには 7 つのメトリックがあります。Compute、μVM、CPU、RAM、ネットワーク、IOPS、ストレージです。

分析グラフは、グラフパネルの下に Instances グリッドに表示される VM に基づいて作成されます。グリッドをフィルタリングすることで、特定の条件を満たす VM に分析の焦点を絞ることができます。

分析グラフのコントロール

分析グラフには、タイムフレーム、チャートタイプ、メトリック、エクスポートのための標準的なグラフの管理機能があります。

タイムフレーム

最大 12 ヶ月分の消費情報を分析グラフに表示することができます。過去 2 週間、過去 31 日間、過去 3 か月間、過去 6 か月間、過去 12 か月間のいずれかまたは全てを選択することができます。

Zoom panel と Fine Tuner

Zoom panel ボタンと Fine Tuner を使用して、グラフの時間枠を変更することができます。



Figure: [Analysis]画面

Zoom panel

Zoom panel ボタンをクリックしてグラフの時間枠を変更できます。

Fine Tuner

Fine Tuner にある左右のスライダーをドラッグすることで、グラフの周期を変更できます。

分析グラフ Instances グリッド

グラフパネルの下には、Instances グリッドが表示されています。分析グラフには、このグリッド内の VM の消費量が反映されています。このグリッドは、他のグリッドと同様にフィルタリングツールを使用してフィルタリングできます。

消費レポートの生成

xStream ポータルには、過去 12 か月間のデータ、およびカスタムタイムフレームで標準消費レポートを生成する機能が提供されています。レポートが生成されると、レポートを CSV ファイルとしてダウンロードできます。消費レポートは、プロファイル単位、ビジネスグループ単位または VM 単位の消費量を確認することができます。

本サービスで提供する標準消費レポートのレポート名と概要を以下に示します。

レポート名	概要
Tenant Compute DCR Report	μVM の消費量を Resource pool 、および VM 単位で出力します。
Tenant Storage DCR Report	ストレージの消費量を VM、データストア、およびアロケーション単位で出力します。
Tenant Compute Consumption BG Report	μVM の消費量をビジネスグループ単位で出力します。
Tenant Storage Consumption BG Report	ストレージの消費量をビジネスグループ単位で出力します。

1. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択し、[Reports]を選択します。
2. [+Request Report]を選択します。
3. [Report Type]と[Period]を選択します。Custom を選択した場合、レポートの開始日と終了日を選択します。カスタム期間は、少なくとも 90 日以内である必要があります。
4. [Save]を選択します。
5. レポートグリッドで[Download CSV]リンクを選択して、レポートをダウンロードして確認します。

Note: 消費レポートに表示される、μVM の消費量について、当日の値は、2 日後の 9:00(JST)に確定します。確定するまでは概算値が表示されます。ストレージの消費量については、6 時間前のデータをもとに算出された値が表示されます。

Note: DR Test Service において、VM を DR サイトへ切替えてからメインサイトへ切戻す間の、μVM ならびにストレージの消費量は、消費レポートに表示されません。

ファイル転送

xStream ポータルは、ISO と OVA のアップロードと OVA のダウンロードを行うためのファイル転送ツールを提供しています。xStream では、GUI ファイル転送ツールによるファイル転送方法が提供されます。

Note: 既存のレガシーCLI ファイル転送ツールはサポートされません。GUI ファイル転送ツールをご利用ください。

GUI ファイル転送ツール

GUI ファイル転送ツールを使用すると、直感的なインターフェースで、ローカルコンピュータとクラウド上のデータストアの間のデータ転送を実施可能です。

Note: GUI ファイル転送ツールは、プロキシサーバーのない環境、および認証機能のないプロキシサーバー環境をサポートします。

GUI ファイル転送ツールのダウンロード

最初に、ツールを xStream ポータルからダウンロードします。[Support]メニューから希望のバージョンのツールを選択します。ローカルコンピュータのOSに応じ、表示されるツールのバージョンが異なります。もし Windows コンピュータを使用している場合、32bit 版と 64bit 版のツールが表示されます。Linux コンピュータを使用している場合は、Windows コンピュータとは別のダウンロード選択肢が表示されることがあります。

アーカイブファイルの展開

ダウンロードされたファイルはアーカイブファイルです。実行前にファイルを展開してください。Windows の場合、展開済みの実行可能ファイル名は xsFileTansfer.exe となります。

GUI ファイル転送ツールの実行

Windows または Linux では通常のローカルアプリケーションと同様に実行可能ファイルを実行してください。Mac システムを利用されている場合は、Apple 社によって登録されていないアプリケーションを実行するため、以下を実施する必要があります。

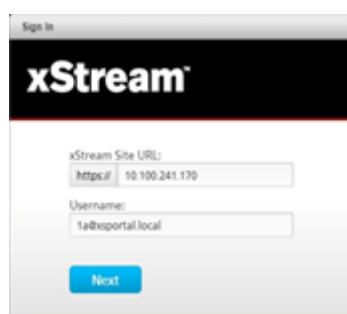
- Mac の[Finder]で、開きたいアプリケーションを探します。

- [Launchpad]は使用しないでください。[Launchpad]はショートカットメニューにアクセスできません。
- Control キーを押しながらアプリケーションアイコンをクリックして、ショートカットメニューから[Open]を選択します。
- [Open]をクリックします。
アプリケーションはセキュリティ設定の例外として保存され、今後は登録済みのアプリケーションと同様に、ダブルクリックすることで開くことができるようになります。

Note: [Security & Privacy]環境設定の[General]パネルで[Open Anyway]ボタンをクリックすることで、ブロックされたアプリケーションを例外的に許可することもできます。このボタンは、アプリケーションを開こうとした後、約 1 時間使用できます。

このパネルを開くには、Apple メニュー > [System Preferences]と選択して[Security & Privacy]をクリックし、[General]をクリックします。

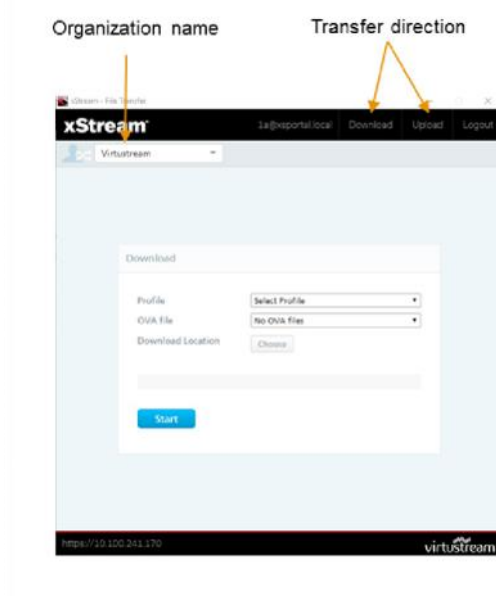
まず、最初に xStream ポータルの URL とユーザー名を入力します。ユーザー名は、xStream ポータルへのログイン時に使用するものと同じです。



次に、xStream ポータル PIN とセキュリティトークンで生成した OTP を、それぞれ入力します。



ログイン成功後のデフォルト遷移先ページはダウンロードページです。組織名が左上に表示されます。ファイルをアップロードするには右上の[Upload]をクリックしてください。以下は、ダウンロードページです。



GUI ツールを使用したファイルダウンロード

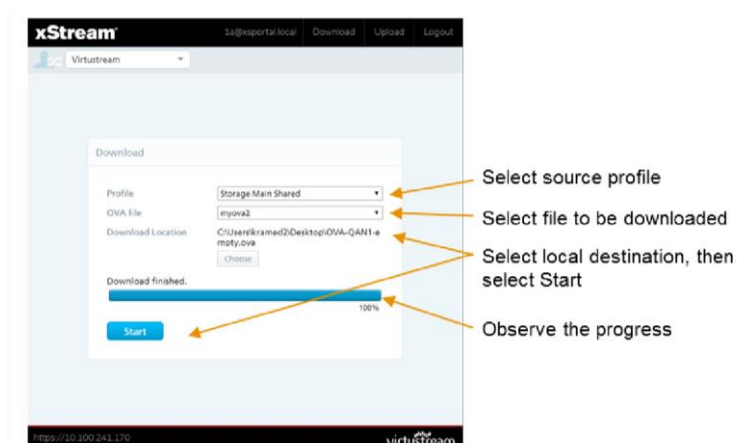
Note: ファイルダウンロード中、GUI ツールが動作する OS がスリープ状態とならないようにスリープ設定を無効にしてください。スリープ状態になると処理が中断し、ファイルダウンロードが失敗します。

Note: ファイルダウンロードが失敗した場合、ブラウザのキャッシュを削除してからファイルダウンロードをリトライしてください。ブラウザのキャッシュを削除しない場合、ファイルダウンロードに失敗する場合があります。

Note: エクスポートされた OVA ファイルに含まれるゲスト OS およびアプリケーションなどのソフトウェアのライセンスを当社が所有している場合、当該のライセンスをお客様のローカルコンピュータなどで継続して利用することはライセンス違反になるため、これを禁止します。この場合、当該ソフトウェアのライセンスをお客様が所有のライセンスに切り替えるなど、お客様の責任で適正にライセンスを管理してください。

1. ダウンロード対象のファイルが存在するプロファイル名を選択します。
2. ダウンロードするファイル名を選択します。
3. ダウンロード先のローカルコンピュータ上の場所を指定します。
4. [Start]をクリックし、ダウンロードを開始します。
5. 進捗バーが表示され、100%になるとダウンロード完了となります。

以下は、ダウンロードが完了した例です。



GUI ツールを使用したファイルアップロード

Note: ISO ファイルまたは OVA ファイル以外のファイルはアップロードしないでください。ISO ファイルまたは OVA ファイル以外のファイルはポータル上から操作することはできません。また、当社による削除は行いません。該当ファイルはストレージ課金の対象となります。

Note: ISO ファイルおよび OVA ファイルの拡張子は、小文字としてください。

Note: アップロード先のストレージアロケーションに同じ名前のファイルがある場合、ファイルは上書きされます。

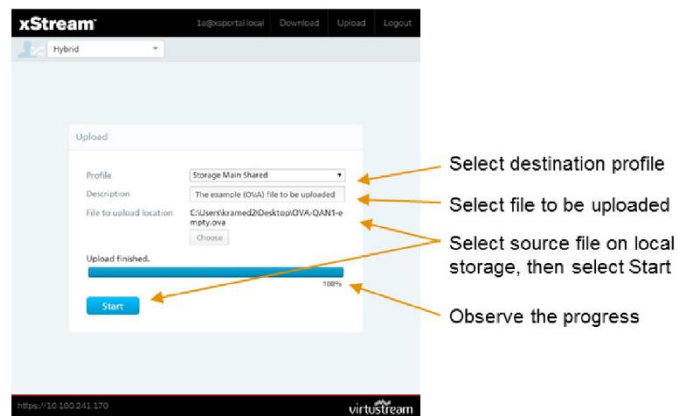
Note: アップロードを実行する前に、下記を必ず確認/実施してください。

- アップロード先のストレージアロケーションに十分な空きがあること。

※容量が不十分な場合、同一ストレージロケーション上の VM に影響を与える可能性があります。

- ISO ファイル内のファイル/OVA 元の VM の事前ウイルスチェック。
1. 対象のストレージプロファイル名を選択します。
 2. 必要に応じてディスクリプションを入力します。
 3. ローカルストレージ上にあるアップロード対象のファイルを選択します。
 4. [Start]をクリックし、アップロードを開始します。
 5. 進捗バーが表示され、100%になるとアップロード完了となります。

以下は、アップロードが完了した例です。



ログアウト

[Logout]ボタンをクリックしてファイル転送ツールからログアウトします。

OS イメージ

OS イメージは、VM のマスターイメージです。お客様は OS イメージを利用することで、VM を容易に展開できます。OS イメージには当社が提供するものと、お客様が VM を変換して作成するものがあります。OS イメージの仕様を変更する場合は、[Turn to VM]アクションを使用して OS イメージを VM に変換し直すことができます。OS イメージが不要になった場合は削除することができます。

グローバルおよびお客様専用の OS イメージは、OS イメージモジュールに表示されます。グローバル OS イメージは当社が管理し、お客様側で変更することはできません。非グローバル OS イメージは、(当社によって特別に作成された OS イメージまたは VM の変換によって作成された OS イメージ)は変更することができます。

VM をプロビジョニングする際にグローバル OS イメージを選択した場合、OS のカスタマイズプロパティを入力する必要があります。

Note: 本サービスで提供する Microsoft SQL Server OS イメージは、非グローバル OS イメージとして提供します。当該 OS イメージの削除、VM への変換、および OS イメージの名前変更は行わないでください。OS イメージがご利用できなくなります。

コンテンツライブラリ

本サービスでは、コンテンツライブラリ機能は提供されません。使用しないでください。

OS イメージの作成

既存の VM を OS イメージに変換することで、OS イメージを作成可能です。

パワーオン状態やスナップショットを取得している VM は OS イメージに変換できません。

Note: OS イメージは、サイト固有です。作成した OS イメージは、変換前の VM と同じサイトに存在し、そのサイトでのみ使用できます。

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. VM を選択して詳細画面を開きます。
3. 必要であれば VM を電源オフし、スナップショットがないことを確認します。
4. [Action]メニューから[Convert to OS Image]を選択します。

5. [Instance Name]を英数、スペース、ハイフン(-)を使用して 128 文字以内で入力します。
6. 必要に応じて[Description]を入力します。
7. 本サービスでは、[Admini/Root Password]オプションは提供されません。使用しないでください。
8. [Convert]を選択します。

OS イメージの削除

不要になった非グローバル OS イメージは削除することができます。

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [OS Image]を選択します。
2. アクションカラム内の[Delete]アイコンを選択し、その後、確定のために[Delete]を選択します。

VM への変換

[Turn to VM]は、非グローバル OS イメージを VM に変換します。OS イメージの仕様を変更したいときに便利です。VM をアップデート後、VM を OS イメージに戻すことで以後の VM 作成に使用できます。

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [OS Image]を選択します。
2. アクションカラム内の歯車アイコンを選択し、次に[Turn to VM]を選択します。
3. VM 作成の際に使用するオフリングとコンピュートプロファイルを選択し、[Save]を選択します。

OS イメージの名前変更

非グローバル OS イメージは名前変更が可能です。

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [OS Image]を選択します。
2. アクションカラム内の歯車アイコンを選択し、次に[Rename OS Image]を選択します。
3. 新しい名前を[OS Image Name]へ入力します。
4. 本サービスでは、[Admini/Root Password]オプションは提供されません。使用しないでください。
5. [Edit]を選択します。

ISO ファイル

ISO ファイルとは、データ CD/DVD の全体をコピーした単一のファイルです。

ISO ファイルはサイト固有です。アップロードされた ISO ファイルが格納されたサイトにある VM だけが該当 ISO ファイルを接続できます。ISO ファイルの接続時に、利用可能な ISO ファイルがフィルタリングされて表示されます。

[ISO Files]画面には、アップロードされた ISO ファイルが表示されます。ISO ファイルのアップロードは、ファイルアップロードのセクションを参照ください。アップロードされた ISO を VM にアタッチすると、リムーバブルデバイスとして VM から確認できます。ISO ファイルが不要になれば、イメージ画面から削除を行うことが可能です。

ISO ファイルの削除

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [ISO Files]を選択します。
2. アクションカラム内の[Delete]アイコンを選択し、その後、確定のために[Delete]を選択します。

ハードウェアテンプレート

ハードウェアテンプレートは、VM の作成時や変更時に使用される vCPU と RAM の組み合わせです。当社がハードウェアテンプレート管理、提供します。

1. 利用可能なハードウェアテンプレートの一覧を確認するには、左ナビゲーションバーから[Compute] > [Hardware Templates]を選択します。



Name	vCPU	GB RAM
Large	2	4
Normal	1	1
Small	1	0.25

Figure: [ハードウェアテンプレート]パネル

OVA

Open Virtualization Format (OVF)は、仮想アプライアンスやVMのパッケージ化と配布を行うためのオープンスタンダードです。OVFはVMware、RHEL 仮想化、Virtual Box のハイパーバイザーで使用可能です。

OVF パッケージは OVF ファイルと呼ばれています。OVF パッケージは、単一ディレクトリとその配下の複数ファイルの集合です。".ovf"ファイルは、名前やハードウェア要件や他のファイルへの索引を含むパッケージのメタデータの概要を示す XML 記述子です。ディスクイメージと証明書ファイルも OVF ファイル内に含まれています。

Open Virtualization Application / Appliance (OVA) ファイルは、OVF を構成するすべてのファイルをアーカイブする単一のファイルです。

OVA ファイルをアップロードして VM の作成に使用できます。アップロード方法については、「ファイルアップロード」セクションを参照ください。また、OVA ファイルを使用して VM を作成する方法については、「VM の追加」セクションを参照ください。

既存の VM から OVA ファイルを作成できます。「OVA へのエクスポート」セクションを参照ください。

[OVA Files]画面には、アップロードした OVA ファイルと xStream ポータル上で作成した OVA ファイルがすべて表示されます。

この画面から不要な OVA ファイルを削除することができます。

Note: アップロードする前に OVA で指定された VM の要件をお客様のテナント環境でサポートできていることを確認する必要があります。たとえば、VM に 4 つの NIC が指定されていて、それぞれを異なるネットワークセグメントを指定しなければならない場合、要件をサポートするために 4 つのネットワークを持っている必要があります。OVA の要件と使用可能なアロケーションとの間に相違がある場合、追加のリソースプロビジョニングについては、当社ヘオードーシートにてお申込みください。

OVA ファイルの削除

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [OVA Files]を選択します。

2. アクションカラム内の[Delete]アイコンを選択し、その後、確定のために[Delete]を選択します。

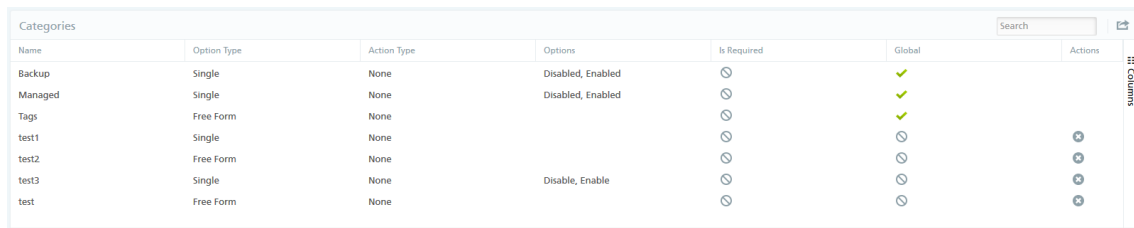
VM のカテゴリ

xStream のカテゴリとは、VM に関連付けられた属性値のことです。カテゴリは VM のメタデータとして機能します。あらかじめ準備したリストからカテゴリの値を選択することができます。また、従来の VM タグに似た自由形式によるカテゴリの値も使用可能です。

カテゴリには、当社が設定するシステムカテゴリ(最大 25 個)と、お客様組織が設定するユーザーカテゴリ(最大 15 個)があります。

お客様の Tenant Administrator がカテゴリの作成・管理ができます。カテゴリを使用することで、カテゴリの属性を共有する VM をグルーピング可能です。単一の VM に複数のカテゴリを設定することが可能です。VM をクローンすると、元の VM のカテゴリがクローンされた VM に引き継がれます。

カテゴリの管理をするには、左ナビゲーションバーのお客様組織名の配下にある[Categories]を選択します。



Name	Option Type	Action Type	Options	Is Required	Global	Actions
Backup	Single	None	Disabled, Enabled	🔒	✔	
Managed	Single	None	Disabled, Enabled	🔒	✔	
Tags	Free Form	None		🔒	✔	
test1	Single	None		🔒	🔒	✕
test2	Free Form	None		🔒	🔒	✕
test3	Single	None	Disable, Enable	🔒	🔒	✕
test	Free Form	None		🔒	🔒	✕

Figure: [Categories]画面

カテゴリのタイプ

カテゴリには、システム(System)とユーザー(User)の 2 つのタイプがあります。

システムカテゴリは当社が設定します。ユーザーカテゴリはお客様が設定します。

ユーザーカテゴリの作成

Tenant Administrator の権限を持つユーザーを使用して、ユーザーカテゴリを作成することができます。

1. Tenant Administrator の権限を持つユーザーでログインします。
2. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択します。
3. [Categories]を選択し、詳細画面を開きます。

4. パネルの右上の[+Add Category]を選択します。
5. [Name]にカテゴリの名前を入力します。名前は、32 文字以下で指定可能です。有効な文字は、英数字、ハイフン“-”、アンダースコア“_”、ハッシュタグ“#”、ピリオド“.”です。
6. [Option Type]を選択します。

[Single]: 本サービスでは、[Single]オプションは提供されません。使用しないでください。

[Multiple]: 本サービスでは、[Multiple]オプションは提供されません。使用しないでください。

[Free Form]: 従来のタグのように、フリーフォーマットで入力可能な値です。
7. [Action Type]を選択します。

[None]: アクションを指定しません。

[Mail Enabled]: 本サービスでは、[Mail Enabled]機能は提供されません。使用しないでください。
8. [Options]パネルで、右上の[Add]をクリックします。ポップアップウィンドウからカテゴリの値のエントリを追加します。値は、3 文字以上 32 文字以下で指定可能です。有効な文字は、英数字、ハイフン“-”、アンダースコア“_”、ハッシュタグ“#”、ピリオド“.”です。各エントリ作成後、[Save]を選択します。

9. [Save Category]を選択し、新しいカテゴリがカテゴリグリッドに表示されていることを確認します。

ユーザーカテゴリの編集

1. カテゴリグリッドに移動します。

Name	Option Type	Action Type	Options	Is Required	Customer Visible	Initial Visibility Level	Actions
Professional_Services	Multiple	None	MSOffice, LinuxSoft...	☑	☑		✎ ✕
test	Free Form	None		☑	☑		✎ ✕
Area	Single	None	01, 02, 03	☑	☑	Partial	✎ ✕
ALL_CUSTOMERS_F...	Free Form	None		☑	☑	All Customers	✎ ✕
SP_invisible	Single	Mail Enabled	inv1, inv2	☑	☑		✎ ✕
as	Single	None	as	☑	☑		✎ ✕
sp_tags01	Free Form	None		☑	☑	All Customers	✎ ✕
Backup	Single	Mail Enabled	Enable, Disable	☑	☑	Partial	✎ ✕

2. 編集したいカテゴリを選択します。なお、[Global]カラムにチェックがあるカテゴリはシステムカテゴリのため、編集できません。
3. カテゴリサマリー画面が表示されたら、[Edit Category]を選択します。

Categories > Hybrid-Multiple
Cancel
Save Category

Category Summary

Name* Hybrid-Multiple
Option Type Multiple
Action Type None

Options

Value	Actions
Multiple03	✎
Multiple01	✎
Multiple02	✎
Multiple-Email# 0_20123456789012	✎

4. 必要な修正を実施後、[Save Category]を選択します。

ユーザーカテゴリの削除

1. カテゴリグリッドに移動します。

Name	Option Type	Action Type	Options	Global	Actions
Backup	Single	Mail Enabled	Disabled, Enabled	☑	
Hybrid-Single	Single	Mail Enabled	Single02, Single01, Multiple-Email...	☑	✕
Hybrid-Multiple	Multiple	None	Multiple03, Multiple01, Multiple...	☑	✕
Hybrid-Tags	Free Form	None		☑	✕
SP-Tags-Visible-Partial	Free Form	None		☑	✕
MB-Partially-Visible	Single	None		☑	
Managed	Single	Mail Enabled	Disabled, Enabled	☑	

2. 削除したいカテゴリのアクションカラムにある[Delete]アイコンを選択し、確認します。

VM インスタンスの追加

VM インスタンス画面から、[Add Instance]オプションを使用して VM を作成することができます。

なお、VM の作成は VM ポリシー機能からも実施することができます。本サービスでは、VM ポリシー機能を使用することを推奨します。VM ポリシー機能については、「VM ポリシー」を参照ください。

必要なアクセス許可

[Add Instance]オプションを使用して VM を新規作成する場合、ユーザーが以下のアクセス許可を持つグループに属している必要があります。

1. VM が作成されるお客様組織に対する[TenantPerm:AddVM]
2. 各 NIC に対する[NetworkPerm.Read]、及び、NIC に接続するネットワークに対する[NetworkPerm.AllocateNic]
3. 各ディスクが使用するストレージプロファイルのストレージプロファイル ID に対する[ProfilePerm.Read]
4. 使用するコンピュートプロファイルのコンピュートプロファイル ID に対する[ProfilePerm.Read]

Note: 当社がプロファイルに対するアクセス権を制限していない限り、お客様組織のユーザーは上記の 3 番、4 番の ProfilePerm カテゴリに必要なアクセス許可をもっています。お客様組織のユーザーは、ProfilePerm カテゴリを表示または変更する権限はありません。

Note: [System Administrator]は上記すべてのアクセス許可を持っています。

VM 作成方法

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. [+ Add Instance]を選択します。
3. VM のプロパティを入力し、画面上部の[Save Instance]を選択します。

Note: VM 作成と同時に VM ポリシーも作成されます。

VM プロパティ

VM プロパティは、VM インスタンス画面でカテゴリごとにまとめられています。本セクションでは、各カテゴリのプロパティを説明します。

インスタンス詳細

Instance Name: ユーザー指定の VM 名です。英数字またはハイフン“-”を使用して、5～128 文字で指定下さい。VM 作成後も変更可能です。この名前は xStream 上のみで使用されます。

Hostname: 既存の VM では、ホスト名が表示されます。

RID: 既存 VM の RID が表示されます。これはハイパーバイザーが VM を特定するために使用され、VM 名を変更しても RID は変わりません。

Description: VM に対する説明です。利用用途等を記載する欄として使用可能です。

Site: VM が実行されている地理的ロケーションです。

Hypervisor: VM が実行されている地理的ロケーションです。

Business Group: ビジネスグループは、VM をビジネス観点で整理したい場合に使用します。ビジネスグループを分けることで、ビジネスグループ毎のμVM 消費量の内訳を確認できます。既にビジネスグループを作成されている場合は、ドロップダウンメニューからビジネスグループを選択します。ビジネスグループを作成していない場合、またはビジネスグループを選択していない場合、VM はデフォルトで用意されている[Unassigned]ビジネスグループに割り当てられます。

Creator: xStream 上で作成された VM の場合、作成者が表示されます。

Created Date: xStream 4.9 以降で作成された VM の場合、作成日が表示されます。

Prevent VM Snapshots: VM のスナップショット取得を許可するかどうかを選択できます。

Figure: [Instance Details]パネル

システムカテゴリとユーザーカテゴリ

お客様組織が VM のカテゴリ機能を使用されている場合、システムカテゴリとユーザーカテゴリパネルが表示されます。

System Categories		User Categories	
Category	Options	Category	Options
Backup	Disabled	Hybrid-Multiple	Multiple03, Multiple01, Multiple02, Multi...
Managed	Disabled	Hybrid-Tags	dsdfsf

Figure: [System Categories / User Categories]パネル

Note: [FreeForm]のカテゴリの値で有効な文字は、英数字、ハイフン"-","アンダースコア"_"、ハッシュタグ"#","ピリオド"."です。

OS and Compute

Compute Profile: コンピュートプロファイルは、オフリング内の使用可能なコンピュータです。

Compute Allocation: 該当 VM に使用するコンピュータロケーションを選択します。

Allocation Tags: 当社が該当コンピュータロケーションにタグをつけていた場合に表示されます。

OS: 希望の OS を選択いただくか、[None]または[Other]を選択ください。OS を含む ISO ファイルをアタッチする場合は[None]を選択ください。

OS Image or OVA: OS イメージまたは OVA ファイルを使用して VM を作成します。vSphere VM では、OS イメージまたは OVA ファイルは必須ではありません。OS の指定のみで VM を作成できます。

OS のカスタマイズを行いたい場合、OS イメージを使用する必要があります。

Note : OVA を選択すると、[Power on after creation]チェックボックスが表示されます。デフォルトではチェックが入っています。[Power on after creation]を選択すると、OVA からのプロビジョニングの完了後、VM に電源が入ります。

OS Image: OS イメージのドロップダウンリストは、[OS Image or OVA]オプションの選択結果に基づき、OS イメージまたは OVA ファイルが表示されます。ISO から boot する場合は選択しないでください。

Note: グローバル OS イメージ名の末尾に括弧書きで表示される VM のゲスト OS のバージョンと、そのグローバル OS イメージが提供するライセンスのバージョンは一致しない場合があります。ご利用上、問題はございません。

例 : WindowsServer_2019_64_LIC_01(Microsoft Windows Server2016(64-bit))

Hardware Template: ハードウェアテンプレートは、当社により事前に定義された vCPU 数と RAM サイズの組み合わせです。

Note: 新規 VM 作成時に、「hm medium3」、「hm large2」は選択できません。「hm medium3」、「hm large2」を作成する場合は、別のハードウェアテンプレートで VM を作成した後、ハードウェアテンプレートを「hm medium3」、「hm large2」へ変更してください。ハードウェアテンプレートの変更方法は、VM の管理のセクションを参照ください。

Boot to BIOS: [Boot to BIOS]を選択すると、初回 VM 起動中に BIOS 画面で止まります。初回起動後は、通常の起動方法に戻ります。

OS and Compute	
Hardware Template	Medium
<div>5.28 μVM 1 vCPU 4.0 GB RAM</div>	
Compute Profile	Bronze Compute
Compute Allocation	Allocation-1 name
Allocation Tags	
OS	CentOS 4/5 or later (64-bit)
OS Image	CSP-Only Test
Hypervisor Tools	Not Installed
Boot to BIOS	No

Figure: [OS and Compute]パネル

Storage Interfaces

本パネルは[OS and Compute]パネルでコンピュートアロケーションが選択された後、使用可能になります。

Disk 1,2,etc: OS イメージで定義されたディスクがある場合は、アクションカラムの編集アイコンを選択し、Disk1 のストレージプロファイルを指定します。ディスク容量も増やすことができます。定義されたディスクがない場合は、[+]アイコンを使用してディスクを追加してください。

Delete Disks: テンプレートに 1 つ以上のディスクがある場合、アクションカラムの削除アイコンからディスクを削除できます。

Add Disks: 追加のディスクを使用したい場合、パネルの右上にある追加アイコンを選択し、使用するストレージプロファイルと容量を指定して下さい。

Note: [Storage Profile]を選択するプルダウンには、追加するディスクに使用できるストレージプロファイル名と、追加するディスクとして作成可能な最大容量が表示されます。

Note: IaaS Compute μVM Core 構成もしくは Virtual HANA Core 構成の VM には、Block Storage - Replicated をご利用いただけます。IaaS Compute μVM Basic 構成もしくは Virtual HANA Basic 構成には、Block Storage -Local Only をご利用いただけます。

Note: ディスクの追加には以下の制約があります。

- 1 つの SCSI コントローラあたりに作成できる仮想ディスクの上限数は 15 個です。

- 各 SCSI コントローラの SCSI コントローラ番号(x:7)は使用されません。
- 仮想マシンのシステム領域およびブート領域は SCSI コントローラ(0:0)を含み、(0:0)~(0:8)の仮想ディスク上に作成してください。
- SCSI コントローラ 1,2,3 は VMware 準仮想化 SCSI(PVSCSI)で作成されます。SCSI コントローラタイプの変更はできません。
- SCSI コントローラ 1,2,3 上の仮想ディスクおよび、SCSI コントローラ 1,2,3 上の仮想ディスクを含む論理ボリュームを作成した場合、SLA の対象外になります。

SCSI: ディスクを追加する際に、デフォルトと異なる SCSI コントローラを指定する場合に使用します。

Logical Disk: ISO ファイルを VM に接続できます。接続後は、コンソールでリムーバブルデバイスとして認識されていることを確認します。ISO ファイルのアップロードはファイルアップロードのセクションを参照ください。

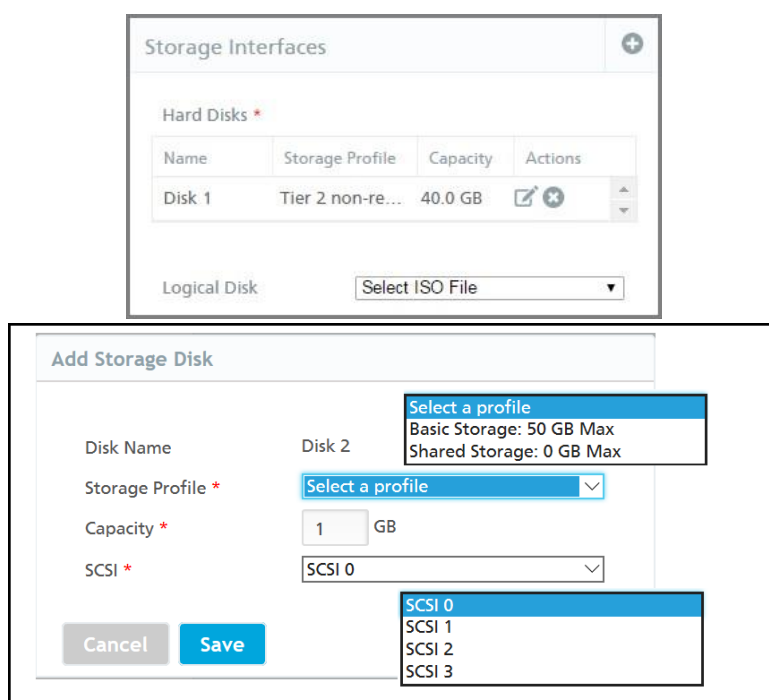


Figure: [Storage Interfaces]パネル、[Add Storage Disk]パネル

OS Customization

OS 設定を指定できます。

Note: OS カスタマイズは、vSphere VM の OS イメージを使用して VM を作成する場合のみ利用可能です。

グローバル OS イメージを選択した場合は、OS カスタマイズの入力が必要となります。

非グローバル OS イメージを選択した場合は、[Enable OS Customization]チェックボックスを選択することで、OS カスタマイズの入力が可能となります。

OS Customization

☒ Enable OS Customization
(required by selected OS Image)

Hostname ☒ Use xStream Name ☐ Enter Custom Name

Timezone

Domain Suffix *

Hardware Clock Set To

Primary DNS

Secondary DNS

Username *

Password *

Repeat Password *

Groups

Group Name	GID	Actions
Group-W1		<input type="text"/> <input type="text"/>

Users

User Name	Group	Home Directory	Shell	Actions
Testing-...		/home/Testing-...		<input type="text"/> <input type="text"/>
Testing-...		/home/Testing-...		<input type="text"/> <input type="text"/>

Figure: [OS カスタマイゼーション]パネル

Note: Windows OS で OS カスタマイズを実施する場合、VM 作成後 10 分程度時間を空けてからログインを行ってください。OS カスタマイズを適用するため、VM は初回起動後、再起動されます。再起動完了前にログインを試行すると、OS カスタマイズの設定内容が正常に適用されませんのでご注意ください。

各 OS の設定については、Windows OS の設定のセクションと Linux OS の設定セクションを参照ください。

Network Interfaces

VM のネットワークを構成する際は、ネットワークアダプタの NIC タイプ、ネットワーク接続、およびの電源投入時にネットワークに接続するかどうかを選択または変更します。使用可能な NIC は、VM のバージョンとゲスト OS によって異なります。

NIC の種類

VirtualE1000: Intel 82545EM Gigabit Ethernet NIC のエミュレート版です。WindowsXP 以降や Linux 2.4.19 以降を含む、ほとんどの新しい OS で利用可能なドライバです。

VirtualE1000e: VirtualE1000e データオブジェクトタイプは、E1000e 仮想イーサネットアダプタのインスタンスを表しています。

VirtualPCNet32: AMD Lance PCNet32 イーサネットカードです。

VirtualVmxnet: VM のパフォーマンスに最適化された、物理概念のない NIC タイプです。OS ベンダはこのカード向けのドライバを提供していないため、VMware Tools をインストールして VMXNET ネットワークアダプタを使用するためのドライバを入手する必要があります。

VirtualVmxnet2: ジャンボフレームやハードウェアへのオフロードなどの新しいネットワークで使用されるパフォーマンス向上機能を提供する VMXNET ベースの NIC タイプです。VMXNET 2 (Enhanced) は一部の OS でのみ使用可能です。

VirtualVmxnet3: パフォーマンスのために設計された次世代の準仮想化 NIC です。VMXNET 3 は、VMXNET 2 ですべての機能を提供し、マルチキューサポート (Windows では受信側スケーリングと呼ばれています)、IPv6 オフロード、MSI/MSI-X 割り込みなどの新しい機能を追加しています。VMXNET3 は、VMXNET や VMXNET2 とは関係がありません。

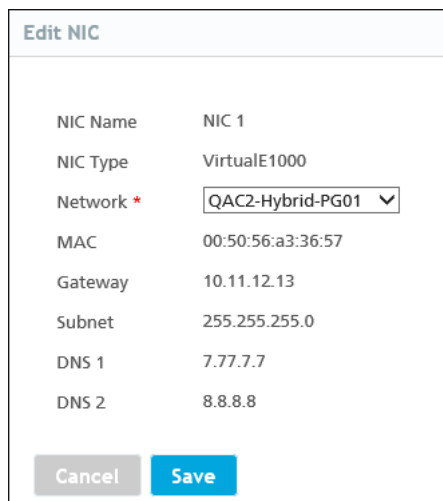
NIC 1,2,etc: アクションカラムの[Edit]アイコンを選択し、[NIC Type]、[Network]、[IP Mode]([Use DHCP]または[Assign IP Address])、[IP Address]を指定します。



Network Interfaces			
Name	Network	IP Address	Actions
NIC 1		DHCP	 

Figure: [Network Interfaces]パネル

Note: IP アドレスを指定するためには、OS カスタマイズを実施する必要があります。



The 'Edit NIC' dialog box contains the following fields and values:

Field	Value
NIC Name	NIC 1
NIC Type	VirtualE1000
Network *	QAC2-Hybrid-PG01
MAC	00:50:56:a3:36:57
Gateway	10.11.12.13
Subnet	255.255.255.0
DNS 1	7.77.7.7
DNS 2	8.8.8.8

Buttons: Cancel, Save

Figure: [NIC 編集]ダイアログボックス

Delete NICs: OS イメージに 1 つ以上の NIC がある場合、アクションカラムの[Delete]アイコンから NIC の削除が可能です。

Add NICs: NIC を追加したい場合、パネル右上隅の[Add]アイコンを選択し、NIC 設定を行ってください。

Note: OS イメージから VM を作成する際に、OS カスタマイズを実施する場合は、OS イメージのデフォルトの NIC 数を変更しないでください。変更した場合、OS カスタマイズは実施されず、指定の設定になりません。

Resource Groups

リソースグループは、まとめて管理できるようにグループ化されたリソースの集合です。xStream ポータルでは、ユーザーに複数の VM へのアクセス権を一度に与えることができるようにリソースグループが利用されます。一度に複数のリソースグループに VM を割り当てることができます。



The 'Resource Groups' panel shows a table with the following content:

In	Group Name
<input checked="" type="checkbox"/>	Limited Access

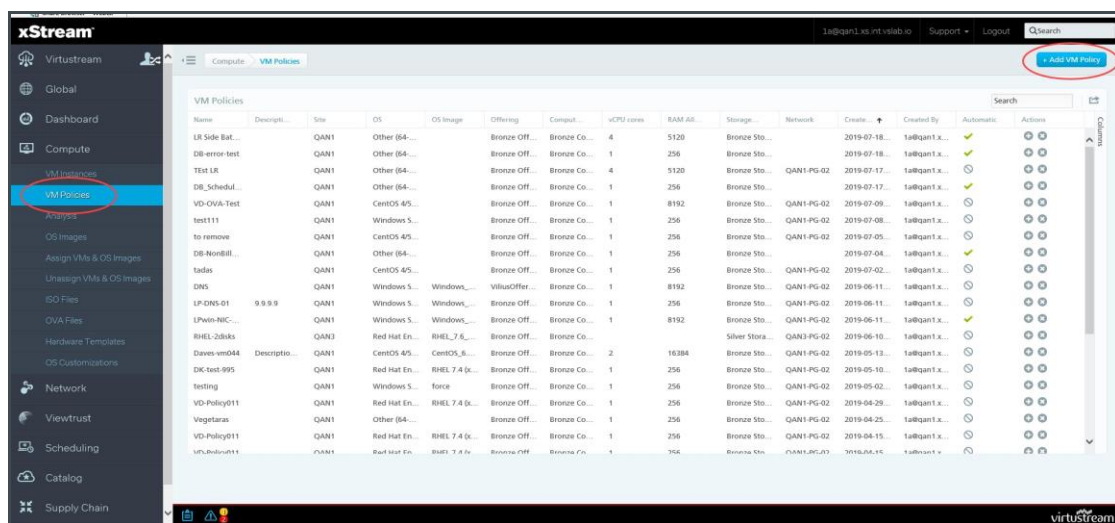
Figure: [VM Resource Groups]パネル
(事前に Limited Access という名前のリソースグループを用意した場合の例)

VM ポリシー

VM ポリシーとは、VM プロパティの定義体です。VM ポリシーを使用して 1 回の操作で 1 つ以上の VM を作成することができます。

VM ポリシーの作成

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [VM Policies]を選択します。
2. [+Add VM Policy]をクリックします。



3. VMのプロパティを入力します。VM ポリシーを作成するために入力する VM プロパティは、VM インスタンスの作成と同じです。VM プロパティの説明は、「VM インスタンスの追加」を参照ください。

4. VM ポリシーを保存する場合は、[Save VM Policy] を選択します。VM インスタンスは作成されません。VM ポリシーを保存すると同時に、VM インスタンスを作成する場合は、[Save Instance] を選択します。

Note: グローバル OS イメージ名の末尾に括弧書きで表示される VM のゲスト OS のバージョンと、そのグローバル OS イメージが提供するライセンスのバージョンは一致しない場合があります。ご利用上、問題はございません。

例：WindowsServer_2019_64_LIC_01(Microsoft Windows Server2016(64-bit))

VM ポリシーの編集

1. VM ポリシーグリッドに移動します。
2. 編集したい VM ポリシーを選択します。
3. 必要な修正を実施後、[Save VM Policy]を選択して VM ポリシーを保存するか、[Save Instance]を選択して、VM ポリシーを保存して VM インスタンスを作成します。

Note: RunOnce スクリプトは「RunOnce スクリプトを追加した VM ポリシーの作成」セクションを参照ください。

VM ポリシーから VM を作成

1. VM ポリシーグリッドに移動します。

2. 使用するポリシーの アクションカラムにある [+]アイコンを選択します。

Name	Description	Site	OS	OS Image	Offering	Compute...	vCPU cores	RAM Allo...	Storage P...	Network	Create...	Created By	Automatic	Actions
asds		QAN1	Other ...		Bronze Off...	Bronze Co...	4	5120	Bronze Sto...		2019-08-27...	1a@qan1.x...	✓	+
TEst LR		QAN1	Other ...		Bronze Off...	Bronze Co...	4	5120	Bronze Sto...	QAN1-PG-02	2019-08-27...	1a@qan1.x...	⊗	+
Hot-O...		QAN1	CentO...		Bronze Off...	Bronze Co...	1	4096	Bronze Sto...	QAN1-PG-02	2019-08-27...	1a@qan1.x...	⊗	+

3. Provision from Policy パネルが表示されます。作成する VM の名前、作成する数を入力して[Save]を選択します。

Provision from policy

Name

Count

Cancel Save

Note : 複数の VM を作成した場合、1 つ目の VM は[Name]で指定した名前となります。2 つ目以降の VM は、[Name]で指定した名前の後ろにカッコ付きの番号が付加されます。例えば、名前に「NewVM」を指定し、3 つの VM を要求した場合、その名前は NewVM、NewVM(1)、NewVM(2)となります。

VM ポリシーの削除

1. VM ポリシーグリッドに移動します。
2. 削除したい VM ポリシーのアクションカラムにある[Delete]アイコンを選択し、確認します。

Name	Description	Site	OS	OS Image	Offering	Compute...	vCPU cores	RAM Allo...	Storage P...	Network	Create...	Created By	Automatic	Actions
asds		QAN1	Other (64...		Bronze Off...	Bronze Co...	4	5120	Bronze Sto...		2019-08-27...	1a@qan1.x...	✓	+
TEst LR		QAN1	Other (64...		Bronze Off...	Bronze Co...	4	5120	Bronze Sto...	QAN1-PG-02	2019-08-27...	1a@qan1.x...	⊗	+
Hot-OVA		QAN1	CentOS 4/5...		Bronze Off...	Bronze Co...	1	4096	Bronze Sto...	QAN1-PG-02	2019-08-23...	1a@qan1.x...	⊗	+
cpuHotAdd		QAN1	Other (64...		Bronze Off...	Bronze Co...	1	256	Bronze Sto...		2019-08-21...	1a@qan1.x...	✓	+
LR Side Bat...		QAN1	Other (64...		Bronze Off...	Bronze Co...	4	5120	Bronze Sto...		2019-08-16...	1a@qan1.x...	⊗	+
to remove		QAN1	CentOS 4/5...		Bronze Off...	Bronze Co...	1	8192	Bronze Sto...	QAN1-PG-02	2019-08-14...	1a@qan1.x...	⊗	+
VD-OVA-Test		QAN1	CentOS 4/5...		Bronze Off...	Bronze Co...	1	8192	Bronze Sto...	QAN1-PG-02	2019-07-09...	1a@qan1.x...	⊗	+

VM の管理

VM 管理には、電源状態および OS 状態の管理、VM コンソールへの接続、NIC とディスクの設定、ISO の着脱、VM スナップショットの管理、VM クローンの作成と削除、VM のマイグレーション、ハイパーバイザーツールの管理が含まれます。

VM 構成の編集

VM の構成変更は、VM の詳細画面で行います。

VM 作成後の OS カスタマイズの設定は xStream ポータルから編集することはできません。VM にログインして、ゲスト OS 上で直接変更を行う必要があります。

VM の詳細画面からサイトまたはコンピュートプロファイルを変更することはできません。VM を別のコンピュートプロファイルまたは別サイトに移動するには、VM の移行機能を使用してください。詳細は、VM の移行のセクションを参照ください。

また VM の詳細画面からディスクのストレージプロファイルの変更は実施しないでください。ディスクを別のストレージプロファイルに変更するには、VM の移行機能を使用してください。詳細は、VM の移行のセクションを参照ください。

他の VM 設定は、VM の詳細画面から変更できます。

[Instance Details]セクション、[OS and Compute]セクション、または[Resource Groups]セクションの設定を編集するには、パネル右上隅の[Edit]アイコンを選択し、変更を加え、パネル右上隅の[Save]を選択します。[Cancel]アイコンを使用して、変更をコミットせずに編集モードを終了することができます。

VM のストレージディスクとネットワークインターフェイスには編集モードはありません。新しい VM を追加するときと同じように、ディスクと NIC を追加、編集、削除が可能です。

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. 変更を様々なパネルで実施します。

CPU と RAM の管理

ハードウェアテンプレートは、使用可能な vCPU 数と RAM サイズの組み合わせを定義します。デフォルトでは、ハードウェアテンプレートを変更するには、VM の電源をオフにする必要があります。

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. [OS and Compute]パネルの右上隅の[Edit]アイコンを選択します。
4. ドロップダウンリストからハードウェアテンプレートを選択します。
5. 右上隅の[Save]アイコンを選択します。

電源状態と OS 状態の管理

VM の詳細画面のアクションメニューまたは VM インスタンスグリッドのアクションカラムの [Edit]アイコンから VM の電源状態と OS 状態を変更できます。選択可能なオプションは、現在の電源状態と OS 状態により異なります。

VM インスタンスグリッドからの電源と OS 状態の管理

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. アクションカラムの[Edit]アイコンを選択し、状態を選択します。

VM 詳細画面からの電源と OS 状態の管理

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. ヘッダーにある[Actions]メニューを選択し、状態を選択します。

Power On

[Power On]は VM を起動させ、ゲスト OS がインストールされている場合はゲスト OS をブートします。[Power On]は、VM をサスペンド状態から復帰させる際にも使用されます。

Power Off

[Power Off]は VM を停止させます。VM はゲスト OS のシャットダウンを行いません。

Suspend

[Suspend]はVMのアクティビティを停止させます。[Power On]を行うまで、オペレーションは固定されます。現在のVMの状態を保存し、後で同じ状態から作業を再開する場合に便利です。

Shutdown OS

[Shutdown OS]はサーバーを正常にシャットダウンします。実行中のアプリケーションは終了され、ゲストOSをシャットダウンされた後、サーバーの電源がオフになります。

Standby

[Standby]はゲストOSの状態を[Not Running]に変更し、VMの電源状態を[Suspended]に変更します。再開には[Power On]を行ってください。

Reboot

[Reboot]はゲストOSを再起動します。

Note: 同一VMに対する電源およびOS状態の変更操作 (コンソール操作含む) は、一つずつ状態変更の完了を待って次の変更操作を実施してください。前の状態変更の完了前に次の変更操作が行われるとVMとユーザーセグメントの接続が失われる場合があります。

コンソール接続

コンソール機能を使用して、VMのマウス、キーボード、および画面にリモートで接続します。本機能により、ゲストOSがローカルコンピュータにインストールされているかのように使用できます。VMの電源がオフの場合、コンソール接続アイコンは表示されません。

VMインスタンスグリッドのアクションカラムのコンソールアイコン、またはVMの詳細画面のアクションメニューを使用して、コンソールに接続できます。

Note: Windows 10 からコンソール接続を行う際、コンソール画面の一部領域においてマウス操作の一部が正常に動作しない場合があります。本事象が発生した場合、下記を実施いただくことで事象が解消される場合があります。

1. [スタート] > [設定] > [システム] > [ディスプレイ] の順に選択します。
2. [拡大縮小とレイアウト] の下にあるドロップダウンメニューから[100%]を選択します。

3. [今すぐサインアウトする]を選択し、サインアウトします。
4. サインイン後、ブラウザを立ち上げてコンソール接続を行います。

VM インスタンスグリッドからのコンソール接続

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. アクションカラムの[Console]アイコンを選択します。
3. 画面がロックされていた場合、[Remote Console]メニューより[Send Ctrl+Alt+Del]を選択するか、画面の右上隅にある[Send Ctrl+Alt+Del]ボタンを選択してください。
4. 必要であれば管理者パスワードを入力し、[Enter]を押してください。
5. ブラウザを閉じることでコンソールセッションを終了します。

VM 詳細画面からのコンソール接続

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. ヘッダーの[Console]アイコンを選択します。
4. 画面がロックされていた場合、[Remote Console]メニューより[Send Ctrl+Alt+Del]を選択するか、画面の右上隅にある[Send Ctrl+Alt+Del]ボタンを選択してください。
5. 必要であれば管理者パスワードを入力し、[Enter]を押してください。
6. ブラウザを閉じることでコンソールセッションを終了します。

VM の削除

削除コマンドは、VM を削除します。削除した VM は復元できません。

削除コマンドを実行するには、VM が電源オフである必要があります。

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。必要であれば VM の電源をオフにします。
3. ヘッダーの[Actions]メニューを選択し、[Delete]を選択して確認します。

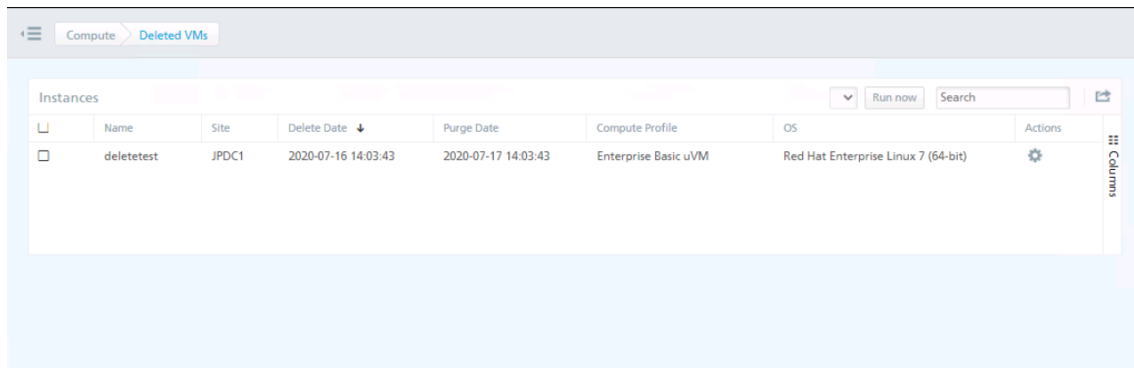
削除済 VM

VM は「VM の削除」操作をしても、すぐにシステムから削除されません。「VM の削除」操作がされると、VM は Compute メニューの下の Deleted VMs ビューに移動します。ここでは、いくつかのアクションを実行することができます。Deleted VMs ビューに移動した VM は、最大 1 日間保管された後に削除されます。

Recover: VM を Compute グリッドに戻します。

Purge: VM を直ちにストレージから完全削除し、復元できないようにします。

Note: VM が完全削除されるまでは、消費リソースは課金対象となります。



Instances								
<input type="checkbox"/>	Name	Site	Delete Date ↓	Purge Date	Compute Profile	OS	Actions	
<input type="checkbox"/>	deletetest	JPDC1	2020-07-16 14:03:43	2020-07-17 14:03:43	Enterprise Basic uVM	Red Hat Enterprise Linux 7 (64-bit)		Columns

Figure: [Deleted VMs]画面

NIC の管理

VM のネットワークを構成する際は、ネットワークアダプタの NIC タイプ、ネットワーク接続、およびの電源投入時にネットワークに接続するかどうかを選択または変更します。使用可能な NIC は、VM のバージョンとゲスト OS によって異なります。本サービスの xStream4.9 より、NIC タイプの変更はできなくなりました。NIC の削除と新規作成にてご対応ください。

NIC の種類

VirtualE1000: Intel 82545EM Gigabit Ethernet NIC のエミュレート版です。WindowsXP 以降や Linux 2.4.19 以降を含む、ほとんどの新しい OS で利用可能なドライバです。

VirtualE1000e: VirtualE1000e データオブジェクトタイプは、E1000e 仮想イーサネットアダプタのインスタンスを表しています。

VirtualPCNet32: AMD Lance PCNet32 イーサネットカードです。

VirtualVmxnet: VM のパフォーマンスに最適化された、物理概念のない NIC タイプです。OS ベンダはこのカード向けのドライバを提供していないため、VMware Tools をインストールして VMXNET ネットワークアダプタを使用するためのドライバを入手する必要があります。

VirtualVmxnet2: ジャンボフレームやハードウェアへのオフロードなどの新しいネットワークで使用されるパフォーマンス向上機能を提供する VMXNET ベースの NIC タイプです。VMXNET 2 (Enhanced) は一部の OS でのみ使用可能です。

VirtualVmxnet3: パフォーマンスのために設計された次世代の準仮想化 NIC です。VMXNET 3 は、VMXNET 2 ですべての機能を提供し、マルチキューサポート（Windows では受信側スケーリングと呼ばれています）、IPv6 オフロード、MSI/MSI-X 割り込みなどの新しい機能を追加しています。VMXNET 3 は、VMXNET や VMXNET 2 とは関係がありません。

NIC の追加

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。

3. [Network Interfaces]パネルの右上隅の[Add]アイコンを選択し、[NIC Type]と[Network]設定を選択します。

Note: VM を作成する際は OS カスタマイズを実施すると NIC に IP アドレスを指定できます。

Note: OS イメージから VM を作成する際に、OS カスタマイズを実施する場合は、OS イメージのデフォルトの NIC 数を変更しないでください。変更した場合、OS カスタマイズは実施されず、指定の設定になりません。

NIC の編集

既存の NIC のネットワークを変更できます。

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. アクションカラムの[Edit]アイコンを選択し、NIC 設定を変更して[Save]を選択します。

NIC の削除

NIC の削除コマンドは NIC の削除が可能です。削除された NIC は復元できません。

削除コマンドを実行するには、VM が電源オフである必要があります。

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。必要であれば VM の電源をオフにします。
3. アクションカラムの[Delete]アイコンを選択し、確認します。

NIC の接続と切断

VM が電源オンの場合、NIC の接続状態を変更できます。

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。必要であれば VM の電源をオンにします。
3. アクションカラムで歯車アイコンを選択し、[Connect]または[Disconnect]を選択します。

ハードディスクの管理

VM が電源オンもしくはオフの時、ディスクの追加、移動、サイズ変更、削除が可能です。

Note: IaaS Compute μVM Core 構成もしくは Virtual HANA Core 構成の VM には、Block Storage - Replicated をご利用いただけます。IaaS Compute μVM Basic 構成もしくは Virtual HANA Basic 構成には、Block Storage -Local Only をご利用いただけます。

ディスクの追加

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. [Storage Disks]パネルの右上隅の[Add]アイコンを選択し、[Storage Profile]と [Capacity]を指定して[Save]を選択します。

Note: ディスクの追加には以下の制約があります。

- 1 つの SCSI コントローラあたりに作成できる仮想ディスクの上限数は 15 個です。
- 各 SCSI コントローラの SCSI コントローラ番号(x:7)は使用されません。
- 仮想マシンのシステム領域およびブート領域は SCSI コントローラ(0:0)を含み、(0:0)~(0:8)の仮想ディスク上に作成してください。
- SCSI コントローラ 1,2,3 は VMware 準仮想化 SCSI(PVSCSI)で作成されます。SCSI コントローラタイプの変更はできません。
- SCSI コントローラ 1,2,3 上の仮想ディスクおよび、SCSI コントローラ 1,2,3 上の仮想ディスクを含む論理ボリュームを作成した場合、SLA の対象外になります。

ディスクの移動

ディスクを異なるストレージプロファイルに移動するには、VM の移行機能を使用してください。VM の詳細画面からディスクのストレージプロファイルの変更は実施しないでください。詳細は、VM の移行のセクションを参照ください。

ディスク容量の増加

編集アイコンからディスクの容量変更が可能です。本オプションは、VM にスナップショットがある場合使用できません。VM のすべてのスナップショットを削除してから実施してください。

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. アクションカラムで[Edit]アイコンを選択し、[Capacity]を増加させて[Save]を選択します。

SCSI コントローラの変更

SCSI コントローラの変更には以下の制約があります。

- 1 つの SCSI コントローラあたりに作成できる仮想ディスクの上限数は 15 個です。
- 各 SCSI コントローラの SCSI コントローラ番号(x:7)は使用されません。
- 仮想マシンのシステム領域およびブート領域は SCSI コントローラ(0:0)を含み、(0:0)~(0:8)の仮想ディスク上に作成してください。
- SCSI コントローラ 1,2,3 は VMware 準仮想化 SCSI(PVSCSI)で作成されます。SCSI コントローラタイプの変更はできません。
- SCSI コントローラ 1,2,3 上の仮想ディスクおよび、SCSI コントローラ 1,2,3 上の仮想ディスクを含む論理ボリュームを作成した場合、SLA の対象外になります。

ディスクの削除

削除コマンドを使用してディスクを削除できます。削除したディスクは復元できません。

Note: スナップショットを取得している場合は、ディスクの削除より前に必ずスナップショットを削除してください。スナップショットを削除せずにディスクを削除した場合、スナップショットファイルは削除されずに、データストア内に残り続けます。

Note: ご使用の OS により、ディスク削除実施の前に OS 上でマウント解除等の操作が必要な場合があります。

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。

3. アクションカラムで[Delete]アイコンを選択し、確認します。

ISO の接続と切断

ISO ファイルを VM に接続できます。接続後は、コンソールでリムーバブルデバイスとして認識されていることを確認します。ISO ファイルのアップロードはファイルアップロードのセクションを参照ください。

ISO の接続

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. [Logical Disks]パネルの右上隅の[Add]アイコンを選択します。
4. 接続する ISO を選び、[Attach]を選択します。

ISO の切断

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. ISO ファイル名の隣にある歯車アイコンから[Detach]を選択し、確認してください。

スナップショットの管理

スナップショット機能を使用すると、特定の時点で VM の状態とデータを保存し、同じ状態に繰り返し戻ることができます。スナップショットは、電源状態、メモリ状態、設定およびディスク状態を含む、VM の完全な状態をキャプチャします。スナップショットから戻ると、スナップショットが作成された時点の状態に戻ります。各 VM は複数のスナップショットを保持できます。

スナップショットはバックアップではありません。スナップショットファイルは元の仮想ディスクの変更ログにすぎません。バックアップとしての信頼性はありません。また、VM は、元の仮想ディスクファイルではなく最新のスナップショットファイル上で実行されます。

チェーン内でサポートされる最大スナップショット数は 32 です。ただし、チェーン内のスナップショットを 2～3 個までとすることを強くお勧めします。

また、24～72 時間以上は単一のスナップショットを使用し続けしないでください。スナップショットが大きくなりすぎて、元の仮想ディスクにコミットする際に問題が発生する可能性があります。スナップショットを作成し、VM に変更を加え、VM の正常な動作状態を確認できたらすぐにスナップショットを削除することを強くお勧めします。

Note: メールサーバーやデータベースサーバーなどの高トランザクションでのスナップショットの使用には特に注意してください。これらのスナップショットは、急にサイズが大きくなり、ストレージを消費していきます。動作確認が完了したら、すぐにスナップショットをコミットしてください。

Note: スナップショットはお客様のデータストア内に作成され、データストア容量を消費します。データストアの使用量を把握いただき、空き容量が少ない場合は不要なスナップショットを削除するなどの対応を実施いただき、空き容量を確保いただく必要があります。データストアの使用量が圧迫されると、VM の起動不可、停止などの事象が発生する可能性があります。

Note: スナップショット取得中ならびに削除中は、VM のパフォーマンスが劣化することがあります。

スナップショットの保持期間

スナップショット作成時に、スナップショットの保持期間を指定する必要があります。デフォルト値かつ最大値は 365 日です。

スナップショットの作成

スナップショットを作成する際、スナップショットにメモリ状態を含めることができます。メモリ状態をキャプチャすると、電源オンの状態に戻ることができます。メモリ状態を含めない場合、電源オフの状態にのみ戻ることができます。メモリ状態を含むスナップショットは、メモリ状態を含まないスナップショットより作成に時間がかかります。メモリ状態の書き込みにかかる時間は、VM が使用できるメモリ量に比例します。

さらに、ゲストファイルシステムを休止することもできます。ファイルシステムの休止は、ディスク上のデータをバックアップに適した状態にします。このプロセスには、ディスクや他の上位レベルのアプリケーション固有のタスクに対して、OS のメモリ内キャッシュからデータイーバッファーをフラッシュする操作が含まれます。

Note: 休止は、一貫性のあるバックアップを保証するため、ディスク上に格納された情報をバックアップ中に変更する可能性のあるプロセスの状態を一時停止または変更することを示しています。

VM が 1 つ以上のスナップショットを持っている場合、カレントカラム内のチェックマークで現在のスナップショットが示されます。

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. [Snapshots]パネルの右上隅の[Add]アイコンを選択します。
4. [Snapshot Name]を英数字で入力します。
5. [Description]を任意で入力します。
6. スナップショット保持期間（日数）値を入力します。入力できる上限は 365 日です。入力しない場合 365 日が設定されます。
7. 必要に応じて、[Memory RAM]または[Quiesce Guest File Sys]を選択します。
8. [Save]を選択します。

スナップショット時点への復帰

スナップショット時点への復帰を行うコマンドを使用すると、メモリ、設定、仮想ディスクの状態をスナップショットが取得された時点のものに戻すことができます。

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。

2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. 復帰に使用したいスナップショットのアクションカラムの歯車アイコンを選択し、[Revert to Snapshot]を選択してください。

スナップショットの削除

削除コマンドを使用すると、スナップショットを削除できます。スナップショットが削除されると、復元はできず、そのスナップショットが保持していた状態は使用できなくなります。

該当のスナップショットが子スナップショットを持っていた場合、親スナップショットを削除時に子スナップショットを合わせて削除するかを選択できます。([Delete Children]チェックボックスで指定)

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. 削除したいスナップショットのアクションカラムで[Delete]を選択し、確認します。

スナップショットの全削除

全削除のコマンドを使用して、該当 VM のすべてのスナップショットを削除できます。削除された VM は復元できません。

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. [Snapshots]パネルで右上隅の歯車アイコンから[Delete All]を選択し、確認して[Delete]を選択します。

VM の移行

VM 移行コマンドを使用して、VM を同一サイトの異なるオフリング、コンピュートプロファイル、コンピュートアロケーション、ストレージプロファイル、ネットワークプロファイルへ移行できます。VM の移行を行う場合、VM は電源をオフにする必要があります。

VM の移行を行う場合、異なるオフリング、コンピュートプロファイル、コンピュートアロケーション、各 disk 向けストレージプロファイル、各 NIC 向けネットワークを選択することができます。すべてのプロファイルを変更する必要はありません。例えば、コンピュートプロファイルのみ変更し、ストレージプロファイルとネットワークプロファイルは変更しないことが可能です。また、VM 移行で選択できるプロファイルは、既存プロファイルと同じオフリング内で提供されているプロファイルからのみ選択できます。

Note: DR Setup された VM は VM 移行コマンドを使用できません。DR Setup メニューの「廃止」または「廃止/新規」をお申込みください。廃止完了後に VM 移行コマンドを実行いただけます。

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。必要であれば VM の電源をオフにします。
3. ヘッダーの[Actions]メニューから[Migrate VM]を選択します。
4. [Service Offering] を選択してください。
5. [Compute Profile]を選択してください。
6. [Compute Allocation]を選択してください。
7. 各ハードディスクで[Storage Profile]を選択してください。
8. 各 NIC で[Network]を選択してください。
9. [Migrate]を選択してください。

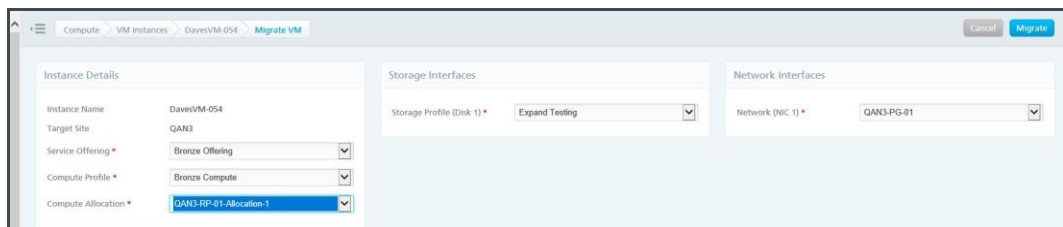


Figure: [Migrate VM]画面

VM のクローン

クローンコマンドを使用すると、該当 VM と同じ構成で同じソフトウェアがインストールされた VM の複製が作成できます。新しい VM の名前と電源状態を選択するプロンプトが表示されます。

本オプションは、VM がスナップショットを保持している場合は使用できません。

Note: 新しい VM の各仮想ディスクは、クローン元 VM の各仮想ディスクが保存されているデータストア上に作成されます。該当のデータストアに十分な空き容量がない場合、クローンが失敗します。クローンが失敗した際は、チケットシステムにて当社に VM のクローンをご依頼ください。当社にて VM をクローンします。

当社の作業実施前に VM の電源をオフにしてください。借用時間は、仮想ディスクのサイズやストレージプロファイル種別、実データの利用状況などの条件により変動します。

なお、お客様のストレージプロファイルに十分な空き容量がない場合、データストアの拡張をお申し込みいただく必要があります。データストアの拡張が開通後、お客様にて再度クローンを実施ください。

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。VM が起動している場合は VM の電源をオフにします。
3. ヘッダーの[Actions]メニューから[Clone VM]を選択します。
4. [Name]を英数字またはハイフン“-”を使用して、5 文字以上 128 文字以内で指定してください。
5. クローン完了後に VM を自動的に電源オンにしたい場合は、[Power On]を選択してください。
6. [Save]を選択してください。

OVA ファイルのエクスポート

Open Virtualization Format (OVF)は、仮想アプライアンスや VM のパッケージ化と配布を行うためのオープンスタンダードです。OVF は VMware、RHEL 仮想化、Virtual Box のハイパーバイザーで使用可能です。

OVF パッケージは OVF ファイルと呼ばれています。OVF パッケージは、単一ディレクトリとその配下の複数ファイルの集合です。".ovf"ファイルは、名前やハードウェア要件や他のファイルへの索引を含むパッケージのメタデータの概要を示す XML 記述子です。ディスクイメージと証明書ファイルも OVF ファイル内に含まれています。

Open Virtualization Application / Appliance (OVA) ファイルは、OVF を構成するすべてのファイルをアーカイブする単一のファイルです。

xStream ポータル上で VM から OVA ファイルを作成することができます。OVA エクスポートが完了すると、該当ファイルがコンピュートモジュールの下の OVA ファイル画面に表示されます。

OVA ファイルは、xStream からローカルコンピュータにダウンロードすることが可能です。詳細は、ファイルダウンロードのセクションを参照ください。

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. 必要であれば、VM の電源をオフにします。
4. ヘッダーの[Actions]メニューから[Export to OVA]を選択します。
5. [Name]と必要に応じて[Description]を入力します。
6. OVA ファイルが格納される[Storage Profile]を選択します。
7. [Export]を選択します。
8. [Compute] > [OVA Files] を選択し、OVA ファイルを確認します。

ハイパーバイザーツールの管理

VMware Tools は、VM のゲスト OS のパフォーマンスを向上させ、VM の管理性を向上させるユーティリティです。VMware Hypervisor ツールのインストール、バージョンのアップグレード、ツールの削除を行うことができます。

本コマンドを使用する際は、VM は電源オンである必要があります。

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。必要であれば VM の電源をオンにします。
3. [Actions]メニューから適切なハイパーバイザーツールコマンドを選択します。
4. 選択したアクションを確認します。

Intel-TXT の管理

本サービスでは、IntelL-TXT の管理機能は提供されません。変更しないでください。

VM の名前変更

VM の UI 上の名前はいつでも変更可能です。VM 作成時に生成された RID は変更されません。

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. [Instance Details]パネルの右上隅の[Edit]アイコンを選択します。
4. [Instance Name]を英数字またはハイフン“-”を使用して 5 文字以上 32 文字以内で指定します。
5. [Instance Details]パネルの右上隅の[Save]アイコンを選択します。

カタログ機能を利用したリソース作成

本サービスでは、カタログ(Catalog)機能は提供されません。使用しないでください。

アンチアフィニティグループ

本サービスでは、アンチアフィニティグループ機能は提供されません。使用しないでください。

キーペアの管理

キーペアは、API の認証に利用します。

キーペアの割り当ては 2 つのステップで行います。

最初に、ユーザーにキーペアを発行します。この操作はお客様組織のどのユーザーでも実施できます。

次に、そのユーザーは自分のキーペアを有効化する必要があります。

自分自身のキーペアの発行と有効化

[My Account]画面から自身のキーペアを発行可能です。

1. ヘッダーから自身の[Username]を選択し、[My Accounts]画面を表示します。
2. キーペアを発行するため、キーペアグリッドの右にある[+]アイコンをクリックします。
3. キーペアグリッドに対象のキーペアが表示されたら、アクションカラムにある歯車アイコンをクリックします。
4. [Activate]を選択し、確認のため[Activate]を選択します。

自分自身のキーペアの無効化

[My Account]画面から自身のキーペアを無効化可能です。

1. ヘッダーから自身の[Username]を選択し、[My Accounts]画面を表示します。
2. キーペアを発行するため、キーペアグリッドの右にある[+]アイコンをクリックします。
3. キーペアグリッドに対象のキーペアが表示されたら、アクションカラムにある歯車アイコンをクリックします。
4. [Suspend]を選択し、確認のため[Suspend]を選択します

Note: 無効化したキーペアを再度有効化することはできません。必要に応じて再度発行して下さい。

他人によるキーペアの発行

どの xStream ユーザーもお客様組織内のユーザーに対してキーペアを発行可能です。

1. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択します。
2. [Users]を選択し、該当のユーザーを選び、詳細画面を開きます。
3. [Issue Key Pair]を選択し、確認のため[Issue]を選択します。

他人が発行したキーペアの有効化

[My Account]画面から自分のキーペアを有効化します。

1. ヘッダーから自身の[Username]を選択し、[My Accounts]画面を表示します。
2. アクションカラム内の保留状態となっている該当のキーペアの歯車アイコンを選択します。
3. [Activate]を選択し、確認のため[Activate]を選択します。

キーペアの確認

キーペアの確認をするには、[My Account]ページを開き、キーペアグリッドから確認したいキーペアのプライベートキーを選択します。表示されるダイアログボックスからパブリックキーとプライベートキーの両方がコピー可能です。

ビジネスグループの管理

ビジネスグループは、部門やアプリケーションの種類などの共通の組織特性を共有する VM をお客様がカテゴリ分類する機能です。これは、物理リソースのビューとは対照的に、VM とそのリソース消費量のビジネス的側面のビューを表示することを目的としています。ビジネスグループ毎に VM を表示するだけでなく、お客様社内管理向けにビジネスグループ内のすべての VM のコンピュートおよびストレージの消費量を表示できます。

VM は、1 つのビジネスグループにのみ割り当て可能です。ただし、いつでも別のビジネスグループに移動可能です。デフォルトでは、ユーザーがビジネスグループを選択せず VM を作成した場合、デフォルトの[Unassigned]ビジネスグループに割り当てられます。

ビジネスグループの確認

ビジネスグループに含まれる VM がインスタンスグリッドに表示されます。

1. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択し、[Business Groups]を選択します。
2. ビジネスグループを選択し、詳細画面を開きます。

ビジネスグループの追加

以下の手順でビジネスグループを作成できます。

1. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択し、[Business Groups]を選択します。
2. [+Add Business Group.]を選択します。
3. [Group Name]を英数字、スペース、およびアンダースコア"_"を使用して 25 文字以内で指定します。
4. [Budget Code]を英数字またはアンダースコア"_"を使用して 25 文字以内で指定します。
5. 本サービスでは提供をしていないカタログ機能向けの設定です。 必須設定であるため、[Use Organization Approvers]を選択してください。
6. [Save]を選択します。

ビジネスグループの編集

ビジネスグループのバジェットコードは変更可能です。ビジネスグループ名は変更できません。

Note: ビジネスグループは、階層構造をとれません。

1. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択し、[Business Groups]を選択します。
2. ビジネスグループを選択し、詳細画面を開きます。
3. [Business Group Details]パネルの右上隅の[Edit]アイコンを選択し、変更を実施し、[Save]アイコンを選択します。

ビジネスグループの削除

ビジネスグループに VM が含まれる場合は削除できません。

1. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択し、[Business Groups]を選択します。
2. アクションカラムで[Delete]アイコンを選択し、確認します。

ビジネスグループへの VM 割り当て

VM 作成画面または VM 詳細画面から、VM をビジネスグループに割り当て可能です。1 回の操作で複数の VM をビジネスグループに割り当てることもできます。

Note: 各 VM は一度に 1 つのビジネスグループのみに属することができます。

1 つの VM をビジネスグループへ割り当てる方法

1. 左ナビゲーションバーから[Compute] > [VM Instances]を選択します。
2. グリッドから VM を選択し、詳細画面を開きます。
3. [Instance Details]パネルの右上隅の[Edit]アイコンを選択します。
4. [Business Group]を指定し、[Instance Details]パネルの右上隅の[Save]を選択します。

複数の VM をビジネスグループへ割り当てる方法

VM Instance グリッドから 1 回の操作で複数の VM をビジネスグループへ割り当てることもできます。各 VM 名の左側にあるチェックボックスを選択し、ドロップダウンのアクションリストから[Set Business Group]を選択します。

ビジネスグループ毎のコンピュータ消費量とストレージ消費量の確認

ビジネスグループ詳細画面では、ビジネスグループ内のすべての VM の当月消費グラフが μ VM 単位で表示されます。

グラフ中の点にカーソルを合わせると、消費量がポップアップで表示されます。

コンピュータ消費量グラフがデフォルトで表示されています。[Storage (GB)]を選択すると GB 単位のストレージ消費量が表示されます。

Note: ある VM のリソース消費量は、該当ビジネスグループに割り当てが行われた瞬間から他のビジネスグループに割り当てが行われる瞬間まで、該当ビジネスグループとして計上されます。割り当て変更が行われた月の月初から分計されるわけではありません。

ユーザーアカウントの管理

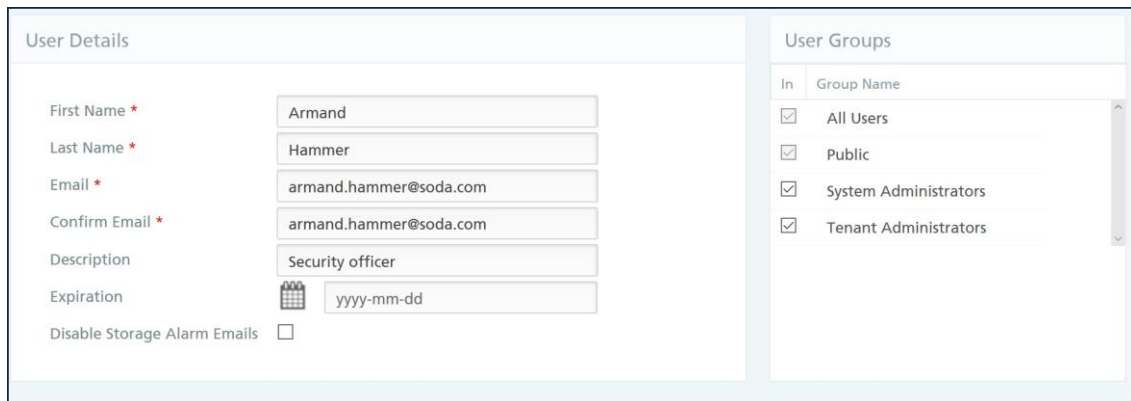
ユーザーの管理には、ユーザーアカウントの作成、編集、削除、およびクラウドリソースにたいするユーザーのアクセス許可の管理が含まれます。

ユーザーの作成

1. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択し、[Users]を選択します。
2. [+Add User]ボタンを選択し、ユーザーアカウントの設定を入力します。
3. デフォルトでは、ユーザーアカウントは失効しません。必要であれば、アカウントの失効日を設定します。
4. ユーザーが割り当てられるべきユーザーグループを選択し、[Save User]を選択します。
5. 新しいユーザー宛てに、ユーザー名と初期パスワードが含まれたメールが送信されます。

Note: ユーザーグループを選択しない場合、ユーザーはすべてのリソースに対して読み取り許可のみを持つ[All Users]グループに割り当てられます。

Note: 新しいユーザーは、2要素認証が無効の状態で作成されます。ポータルアクセスを行う場合は、該当ユーザーの2要素認証の有効化を実施してください。



User Details	
First Name *	Armand
Last Name *	Hammer
Email *	armand.hammer@soda.com
Confirm Email *	armand.hammer@soda.com
Description	Security officer
Expiration	yyyy-mm-dd
Disable Storage Alarm Emails	<input type="checkbox"/>

User Groups	
In	Group Name
<input checked="" type="checkbox"/>	All Users
<input checked="" type="checkbox"/>	Public
<input checked="" type="checkbox"/>	System Administrators
<input checked="" type="checkbox"/>	Tenant Administrators

Figure: [Add User]画面

ユーザーアカウントの編集

ユーザーアカウントの情報とユーザーグループのメンバーシップを編集可能です。

1. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択し、[Users]を選択します。
2. ユーザーを選択し、詳細画面を開きます。

3. [Edit User]を選択します。
4. 編集を行い、[Save User]を選択します。

ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントの削除が可能です。削除を行うと、該当ユーザーは xStream にアクセスできなくなります。

1. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択し、[Users]を選択します。
2. アクションカラムで[Delete]アイコンを選択し、確認します。

2 要素認証の有効化

ポータルアクセスを行う場合、該当ユーザーの 2 要素認証を有効化する必要があります。

1. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択し、[Users]を選択します。
2. 2 要素認証の有効化を行うユーザーを選択し、詳細画面を開きます。
3. [Edit User]から[Enroll OTP]を選択します。
4. 2 要素認証の有効化を行ったユーザー宛てに、「[Enterprise Cloud for ERP]2 要素認証の有効化」メールが送信されます。メールにはセキュリティトークンの設定に必要な「xStream ポータル PIN 登録用 URL」と「xStream ポータル PIN の登録、およびセキュリティトークンの設定手順」が含まれます。

2 要素認証の無効化

ユーザーの 2 要素認証を無効化できます。

1. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択し、[Users]を選択します。
2. 2 要素認証の無効化を行うユーザーを選択し、詳細画面を開きます。
3. [Edit User]から[Revoke OTP]を選択します。

Note: ユーザーが 11 回以上ログインに失敗した場合、自動的に 2 要素認証が無効化されます。無効化された際、無効化されたユーザー宛てに、「[Enterprise Cloud for ERP]2 要素認証の無効化」メールが送信されます。

ユーザーパスワードのリセット

ユーザーはパスワードを自身でリセット可能です。また、管理者がユーザーの代わりにユーザーパスワードをリセットすることも可能です。その場合、ユーザーはパスワードリセット行った管理者の名前を含む[Changed Password Notification]メールを受け取ります。

1. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択し、[Users]を選択します。
2. ユーザーを選択し、詳細画面を開きます。
3. [Edit User]を選択し、[Reset Password]を選択します。
4. [Password]を入力し、確認します。
5. [Save]を選択し、変更をコミットします。

言語選択

xStream ポータルは、デフォルトで英語、ポルトガル語、スペイン語、ドイツ語、日本語をサポートします。

ログインプロセス中に現行セッションで使用する言語を選択できます。また、今後のログインのためのデフォルトの言語を設定することもできます。マイアカウント画面から言語を選択できます。

1. ヘッダーから自身の[Username]を選択し、[My Accounts]画面を表示します。
2. [My Details]画面の右上隅の[Edit]アイコンを選択します。
3. [Language]をドロップダウンリストから選択します。
4. 現在のパネルの右上隅の[Save]を選択します。
5. [Change User confirmation]ダイアログボックスが表示され、言語設定の変更をコミットするため、ログオフするように指示されます。[Save]を選択し、[Logout]を行います。再度ログインすると、xStream ポータルは設定したデフォルトの言語で表示されます。

アクセス許可の管理

アクセス許可の管理では、ユーザーグループ、リソースグループ、リソースロールの作成、およびロールの割り当てが含まれます。ロールの割り当てによって、ユーザーグループ、リソースグループ、およびリソースロールの関係が決定され、誰がどのリソースにアクセスできるかとどのようなアクセスが可能かを制御します。

ユーザーグループの管理

ユーザーグループは、単一のまとまりとして管理できる xStream ポータルのユーザーの集合です。xStream ポータルでは、ユーザーグループを使用して複数のユーザー権限をリソースに簡単に割り当てることができます。

デフォルトのユーザーグループは、組織のセットアップ時に作成され、編集または削除はできません。デフォルトのユーザーグループには下記があります。

- All Users
- System Administrators
- Tenant Administrators
- Application Administrators（本サービスでは、ユーザーグループ「Application Administrators」は提供されません。使用しないでください）
- Landscape Administrators（本サービスではユーザーグループ「Landscape Administrators」は提供されません。使用しないでください）
- Read-only Users
- VM Console Users

ユーザーグループの作成

1. 左ナビゲーションバーで対象の組織名を選択し、[User Groups]を選択します。
2. [Edit User Groups]を選択します。
3. [User Groups]パネルの右上隅の[Add]アイコンを選択します。
4. ユーザーグループの名前を 25 文字以内で入力します。
5. [Add]を選択してユーザーグループを追加し、ダイアログボックスを閉じます。または、複数ユーザーグループを作成する場合は、[Add & Next]を選択します。
6. [Save User Groups]を選択します。

ユーザーグループの削除

ユーザーグループの削除はいつでも実施可能です。

1. 左ナビゲーションバーで対象の組織名を選択し、[User Groups]を選択します。
2. [Edit User Groups]を選択します。
3. 削除したいユーザーグループのアクションカラムで[Delete]を選択します。
4. [Save User Groups]を選択します。

ユーザーグループのメンバー管理

ユーザーグループのメンバーはユーザーグループ詳細画面から管理できます。また、ユーザー画面からユーザーグループにユーザーを追加できます。

1. 左ナビゲーションバーで対象の組織名を選択し、[User Groups]を選択します。
2. ユーザーグループを選択し、詳細画面を開きます。
3. [Group]パネルの[Users]で[Edit]アイコンを選択します。
4. 該当のユーザーグループに追加したいユーザーのチェックボックスを選択します。また、ユーザーグループから除外したいユーザーのチェックボックスを非選択とします。
5. [Save]を選択します。

マルチテナントユーザーグループ

マルチテナントユーザーグループは、複数テナントをご契約し、管理されるお客様向けのユーザーグループです。1つのマルチテナントグループには1つの管理元テナントと1つの管理先テナントが設定されます。マルチテナントユーザーグループに所属する管理元テナントのユーザーは管理先テナントに対して下記のロールが割り当てられます。

- System Administrator
- Tenant Administrator

マルチテナントユーザーグループは複数作成することができます。また、お客様が管理されるテナントのいずれにおいても作成できます。

Note: マルチテナントユーザーグループに所属する管理元テナントのユーザーは管理先テナントに対してファイル転送機能を使用することができません。ファイル転送機能をご利用される場合は、管理先テナントのユーザーでログインしてください。

マルチテナントユーザーグループの作成と削除

マルチテナントユーザーグループの作成、および削除は、当社にて実施致します。オーダーシートにてお申込みください。

マルチテナントユーザーグループで管理するテナントの設定

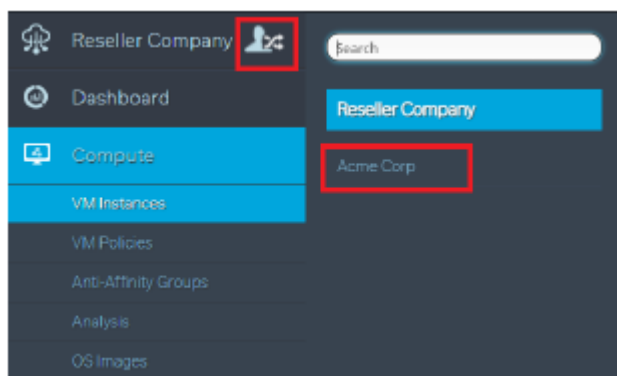
マルチテナントユーザーグループで管理するテナントの設定は当社にて実施致します。オーダーシートにてお申込みください。

マルチテナントユーザーグループのメンバー管理

マルチテナントユーザーグループのメンバー管理は、ユーザーグループが所属する管理元テナントの Tenant Administrator ロールをもったユーザーが実施できます。詳細は、ユーザーグループのメンバー管理のセクションを参照ください。

管理するテナント間の移動

1. 左ナビゲーションバーで Organization Switcher をクリックします。
2. 移動したいテナントを選択します。



リソースグループの管理

リソースグループは、単一のまとまりとして管理できるようにグループ化されたリソースの集合です。xStream ポータルでは、リソースグループは一度に複数のリソースに対して、ユーザーにアクセス許可を与える場合に利用されます。

xStream ポータルでは、下記のデフォルトのリソースグループが用意されています。追加のリソースグループは必要に応じて作成可能です。デフォルトのリソースグループは、組織のセットアップ時に作成され、編集または削除はできません。

- All Resources
- Unassigned

リソースグループの作成

1. 左ナビゲーションバーで対象の組織名を選択し、[Resource Groups]を選択します。
2. [Edit Resource Groups]を選択します。
3. 新規リソースグループ作成するため、リソースグループの右の[+]をクリックします。
4. リソースグループの名前を入力します。名前は、3 文字以上 63 文字以下で指定可能です。有効な文字は、英数字、ハイフン"-","、スペース、アンダースコア"_","、ハッシュタグ"#"です。
5. [Add]を選択し、リソースグループの追加し、ダイアログボックスを閉じます。または、複数リソースグループを作成したい場合は[Add & Next]を選択します。
6. [Save Resource Groups]を選択します。

リソースグループの削除

リソースグループはいつでも削除が可能です。

1. 左ナビゲーションバーで対象の組織名を選択し、[Resource Groups]を選択します。
2. [Edit Resource Groups]を選択します。
3. 削除したいリソースグループの右の[X]をクリックします。
4. [Save Resource Groups]を選択します。

ロールの管理

リソースロールはアクセス許可の集合です。xStream ポータルでは、リソースロールは複数のアクセス許可を一度に付与する際に利用されます。

デフォルトのロール

デフォルトのリソースロールは組織のセットアップ時に作成され、編集または削除はできません。

デフォルトのリソースロールは、System Administrator、Tenant Administrator、User、Resource Creator、Read Only です。以下は、デフォルトのリソースロールとその基本的な機能です。

System Administrator: VM 作成、VM 管理に必要なアクセス許可をすべて含んでいます。

Tenant Administrator: 組織のコンポーネント管理とユーザー管理に必要なアクセス許可をすべて含んでいます。

User: VM 作成と VM 管理に必要なアクセス許可をすべて含んでいます。

Read Only: 組織内のリソースを表示するのに必要なアクセス許可をすべて含んでいます。

Resource Creator: 組織内のリソースを管理するのに必要なアクセス許可をすべて含んでいます。

ロールの作成

1. 左ナビゲーションバーで対象の組織名を選択し、[Roles]を選択します。
2. [Edit Role]を選択します。
3. [Role]パネルの右上隅の[Add]アイコンを選択します。
4. ロールの名前を入力します。名前は、3 文字以上 63 文字以下で指定可能です。有効な文字は、英数字、ハイフン“-”、スペース、アンダースコア“_”、ハッシュタグ“#”です。
5. [Add]を選択し、ロールを追加し、ダイアログボックスを閉じます。または、複数ロールを作成したい場合は[Add & Next]を選択します。
6. [Save Role]を選択します。

ロールの削除

ロールはいつでも削除できます。

1. 左ナビゲーションバーで対象の組織名を選択し、[Roles]を選択します。
2. [Edit Role]を選択します。

3. 削除したいロールのアクションカラムで[Delete]アイコンを選択します。
4. [Save Role]を選択します。

ロールの管理

ロールの作成後、ロールに含める特定のアクセス許可を定義します。

1. 左ナビゲーションバーで対象の組織名を選択し、[Roles]を選択します。
2. [Edit Role]を選択します。
3. [Roles]パネルでロールを選択します。
4. カテゴリを選択し、使用可能なすべてのアクセス許可を確認します。
5. ロールに含めるべきアクセス許可のチェックボックスを選択します。また、ロールから除外したいアクセス許可のチェックボックスを非選択とします。
6. カテゴリごとに手順 4 と手順 5 を繰り返します。
7. [Save Role]を選択します。

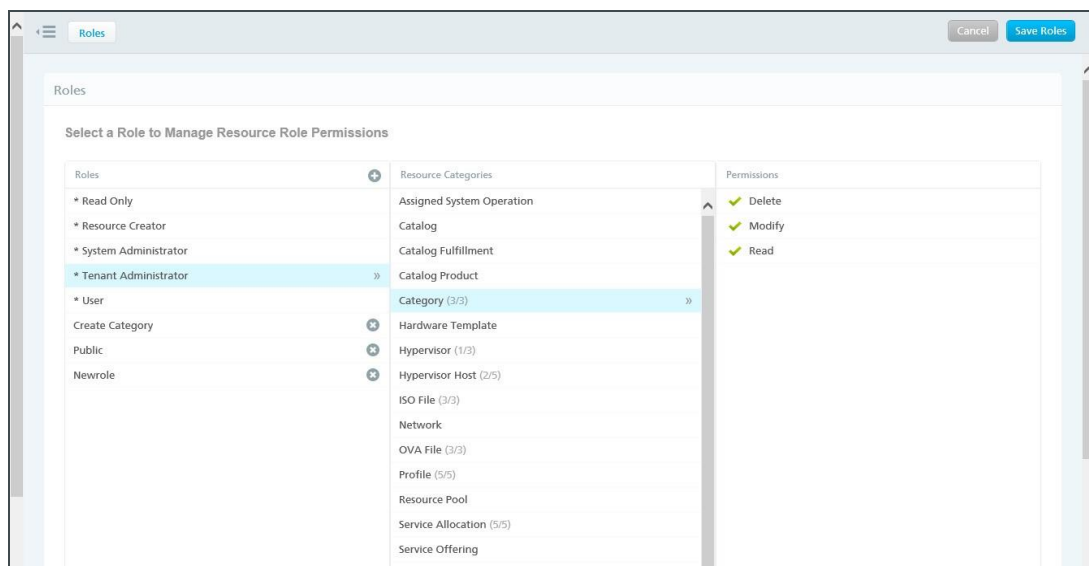


Figure: [Roles] 画面

ロールの割り当ての管理

ユーザーグループ、リソースグループ、ロールの作成後、ロール割り当て画面でそれらの関係を定義します。リソースグループ毎に、各ユーザーグループがリソースに対して持つべきロー

ルを割り当てることができます。ユーザーグループにリソースグループに対するアクセス許可をつけたくない場合、そのロールに対して Unassigned を選択します。

Note: 最低でも 1 つのユーザーグループが、最小で下記のアクセス許可を含む最低一つのロール含む必要があります。

- Network:Read
- Storage:Read
- ResourcePool:Read
- VM:Read

ロールの割り当て

リソースグループに対するロール割り当てを変更できます。

リソースグループに対するロールの割り当て

1. 左ナビゲーションバーで対象の組織名を選択します。
2. カスタムリソースグループのロール割り当てを変更するために [Role Assignment] を選択します。
3. 最初のパネルでリソースグループを選択し、[Edit Role Assignment] を選択します。
4. リソースグループへの何らかのアクセス許可を持つべき各ユーザーグループのロールを選択します。
5. [Save Role Assignment] を選択します。

Resource Groups	Organization	User Group	Role
* All Networks	Acme Company	* All Users	Unassigned
* All Resource Pools	Acme Company	* System Administrators	Unassigned
* All Resources	Acme Company	* Tenant Administrators	Unassigned
* All Storage	Acme Company	AppDirector Administrators	Unassigned
* All Virtual Machines and Templates	Acme Company	Marketing Admins	* System Administrator
* Unassigned	Virtustream	* All Users	Unassigned
Limited Access	Virtustream	* Public	Unassigned
	Virtustream	* System Administrators	Unassigned
	Virtustream	* Tenant Administrators	Unassigned
	Virtustream	Network Engineering	Unassigned

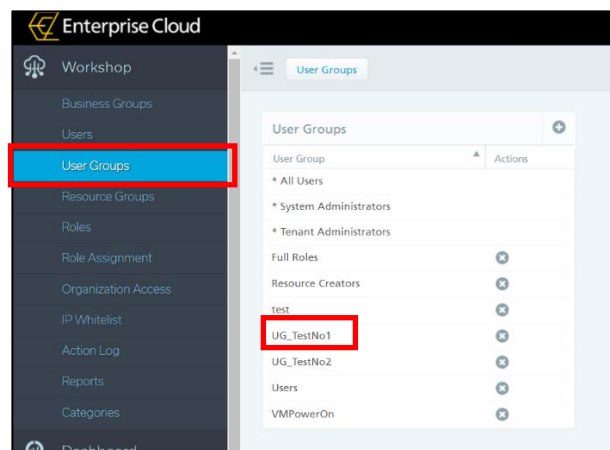
Figure: [Role Assignment]画面

カスタムアクセス許可のシナリオ

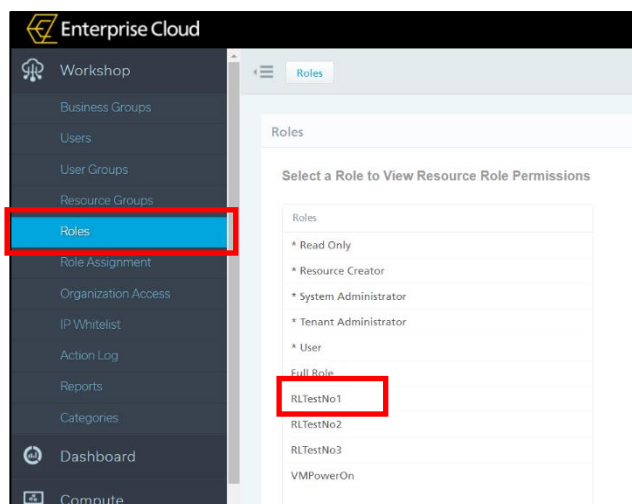
System Administrators ユーザーグループのメンバーである場合、自動的に VM 作成、VM 管理のために必要なアクセス許可を持ちます。本セクションは、System Administrators ではないユーザーに対するカスタムアクセス許可の設定方法について、3つの典型的なシナリオを紹介します。

シナリオ 1: ユーザーに対して、すべての VM に対する読み取りのアクセス許可を付与

[User Groups]からカスタムユーザーグループを作成します(ここでは[UG_TestNo1]ユーザーグループという名前にします)。詳細な作成方法は、[ユーザーグループの管理] - [ユーザーグループの作成]を参照してください。



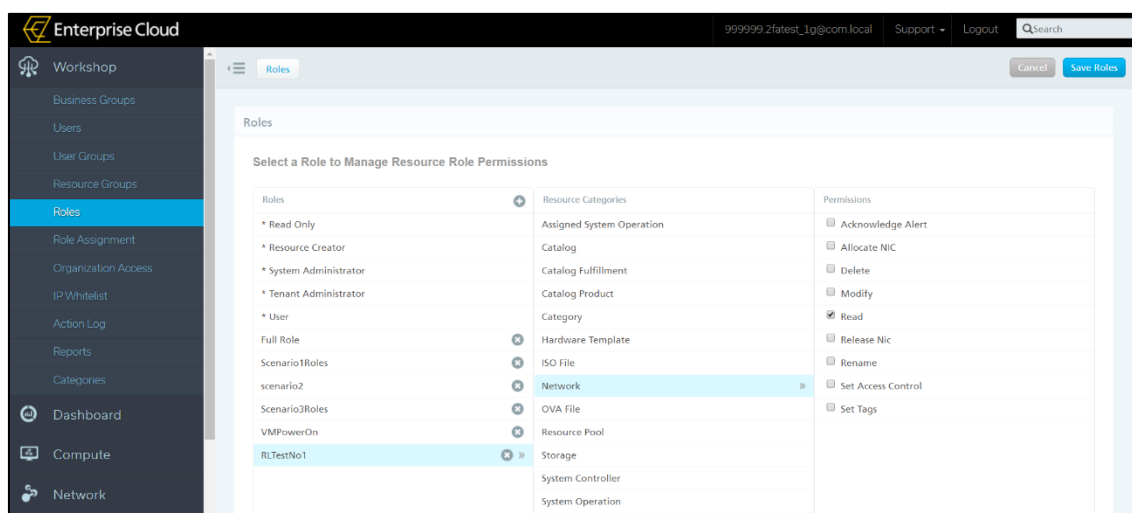
[Roles]からカスタムリソースロールを作成します(ここでは[RLTestNo1] カスタムリソースロールという名前にします)。詳細な作成方法は、[ロールの管理] – [ロールの作成]を参照してください。



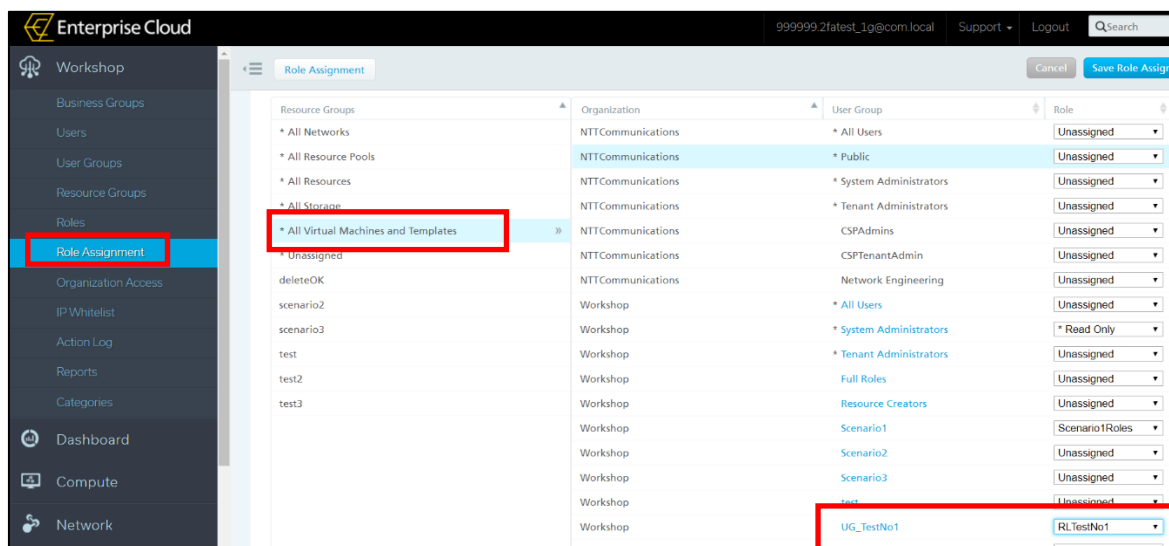
[RLTestNo1]カスタムリソースロールに、以下 4 つのアクセス許可を付与します。

- ① [Resource Categories][Network]-[Permissions][Read]
- ② [Resource Categories][Resource Pool]-[Permissions][Read]
- ③ [Resource Categories][Storage]-[Permissions][Read]
- ④ [Resource Categories][VM]-[Permissions][Read]

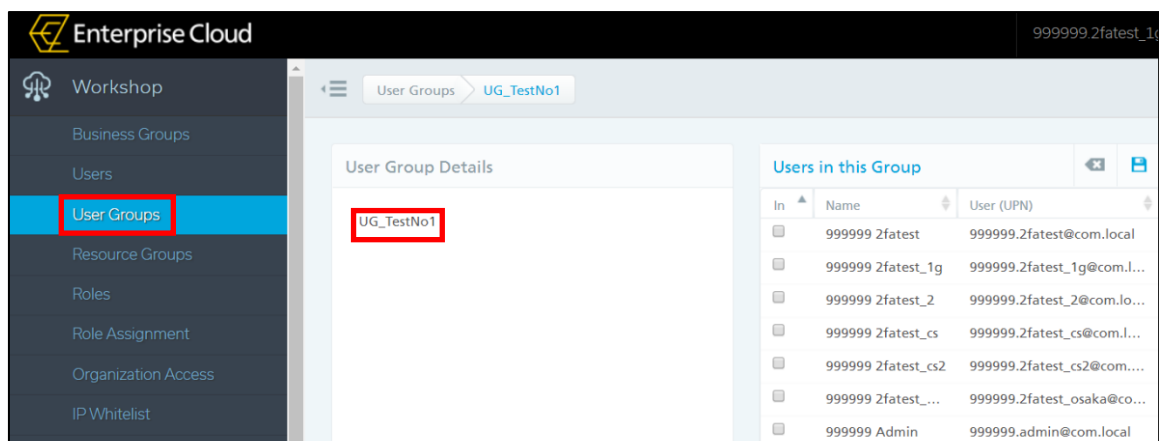
詳細な付与方法は、[ロールの管理] – [ロールの管理]を参照してください。



[Role Assignment] から、デフォルトで定義されている[All Virtual Machines and Templates]リソースグループにおける[UG_TestNo1]カスタムユーザーグループに対して、[RLTestNo1]カスタムリソースロールを割り当てます。詳細な割り当て方法は、[ロールの割り当ての管理] - [リソースグループに対するロールの割り当て]を参照してください。

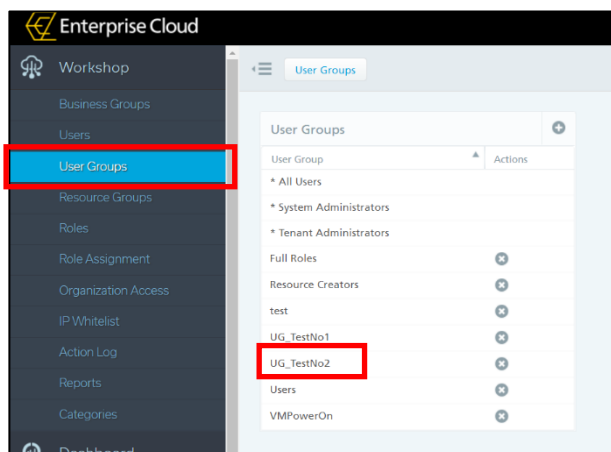


[User Groups]から[UG_TestNo1]カスタムユーザーグループに対して、ユーザーを追加します。詳細な追加方法は、[ユーザーグループの管理] - [ユーザーグループのメンバー管理]を参照してください。

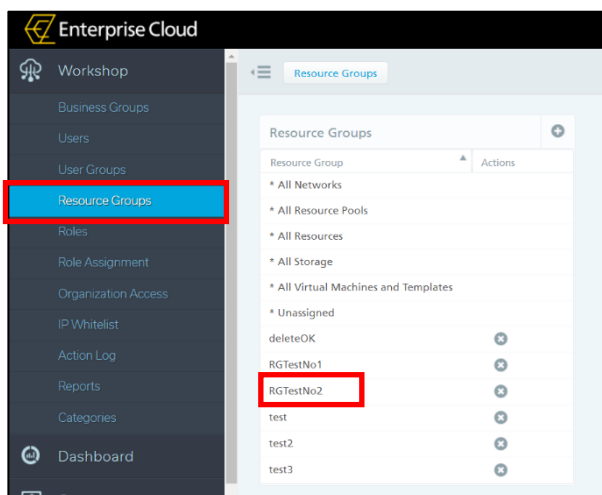


シナリオ 2: ユーザーに対して、特定の VM に対する起動・停止のアクセス許可を付与

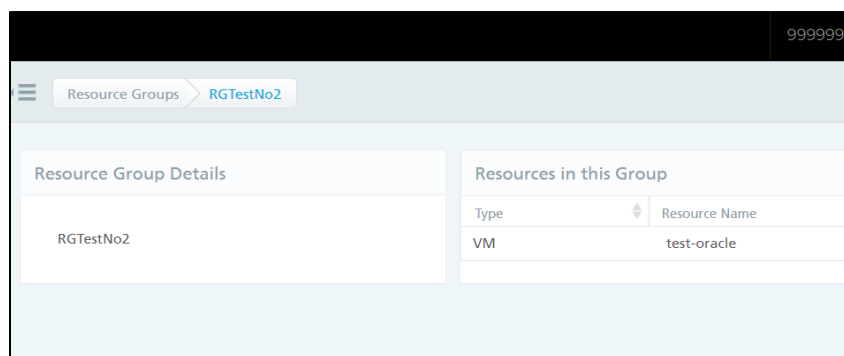
[User Groups]からカスタムユーザーグループを作成します(ここでは[UG_TestNo2]ユーザーグループという名前にします)。詳細な作成方法は、[ユーザーグループの管理] - [ユーザーグループの作成]を参照してください。



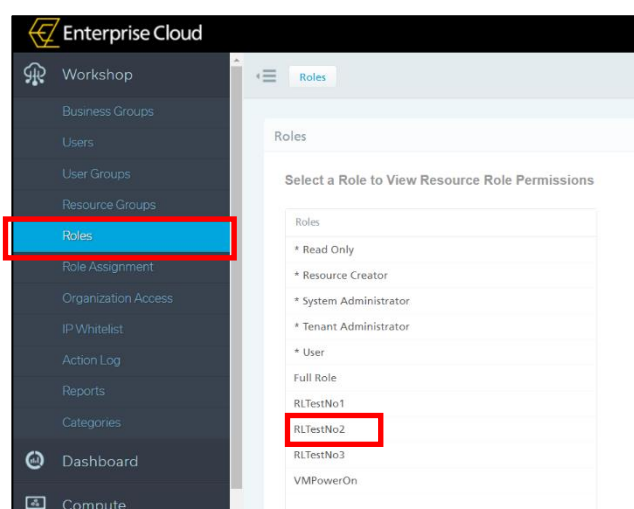
[Resource Groups]からカスタムユーザーグループを作成します(ここでは[RGTestNo2]リソースグループという名前にします)。詳細な作成方法は、[リソースグループの管理] - [リソースグループの作成]を参照してください。



[RGTestNo2]カスタムリソースグループのメンバーにVMを追加します(ここでは[test-oracle]という VM を追加します)。詳細な追加方法は、[リソースグループの管理] – [リソースグループのメンバー管理]を参照してください。



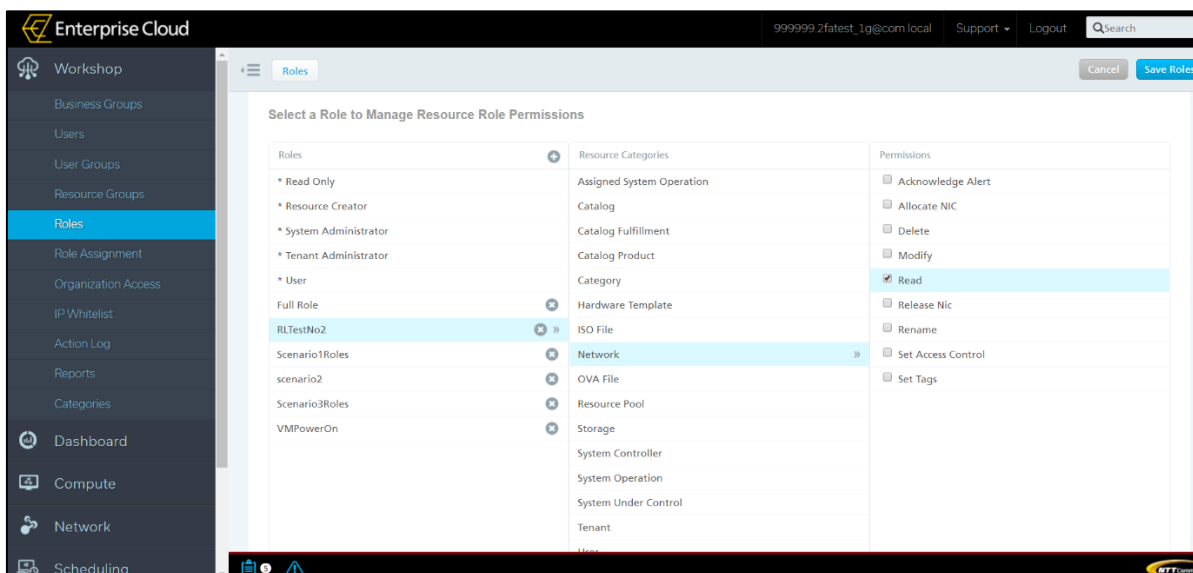
[Roles]からカスタムリソースロールを作成します(ここでは[RLTestNo2] カスタムリソースロールという名前にします)。詳細な作成方法は、[ロールの管理] – [ロールの作成]を参照してください。



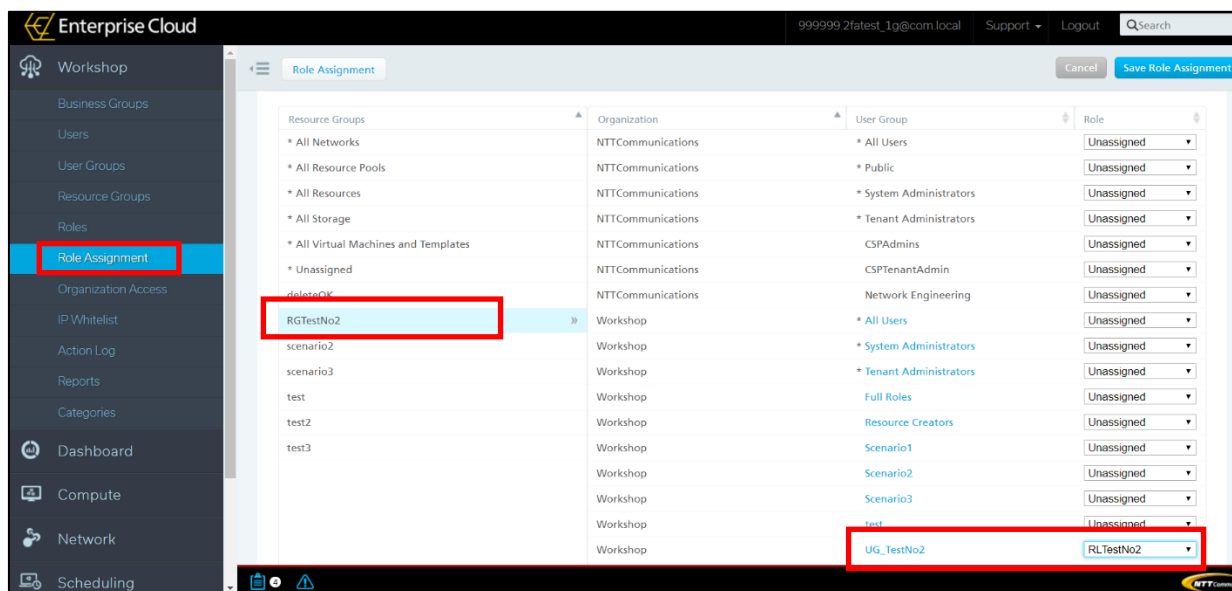
[RLTestNo2]カスタムリソースロールに、以下 8 つのアクセス許可を付与します。

- ① [Resource Categories][Network]-[Permissions][Read]
- ② [Resource Categories][Resource Pool]-[Permissions][Read]
- ③ [Resource Categories][Storage]-[Permissions][Read]
- ④ [Resource Categories][VM]-[Permissions][Read]
- ⑤ [Resource Categories][VM]-[Permissions][Control Guest]
- ⑥ [Resource Categories][VM]-[Permissions][Manage VM Resources]
- ⑦ [Resource Categories][VM]-[Permissions][Power On]
- ⑧ [Resource Categories][VM]-[Permissions][Stop]

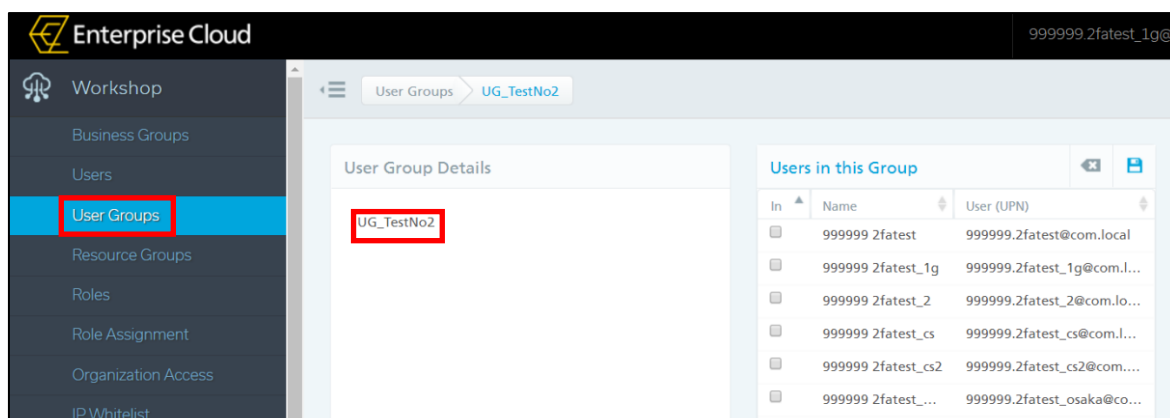
詳細な付与方法は、[ロールの管理] – [ロールの管理]を参照してください。



[Role Assignment] から、[RGTestNo2]カスタムリソースグループにおける[UG_TestNo2]カスタムユーザーグループに対して、[RLTestNo2]カスタムリソースロールを割り当てます。詳細な割り当て方法付与方法は、[ロールの割り当ての管理] - [リソースグループに対するロールの割り当て]を参照してください。

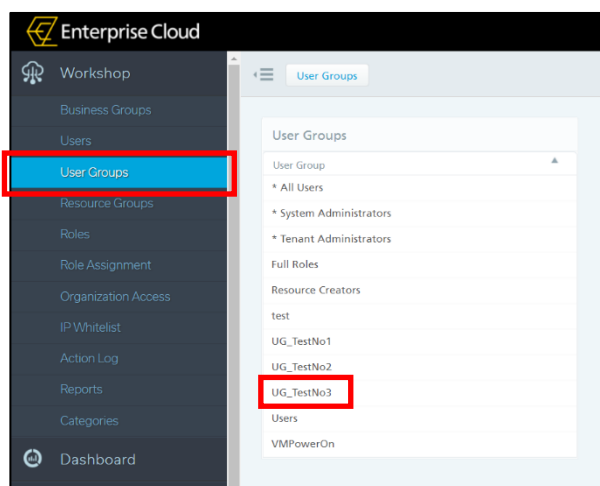


[User Groups]から[UG_TestNo2]カスタムユーザーグループに対して、ユーザーを追加します。詳細な追加方法は、[ユーザーグループの管理] - [ユーザーグループのメンバー管理]を参照ください。

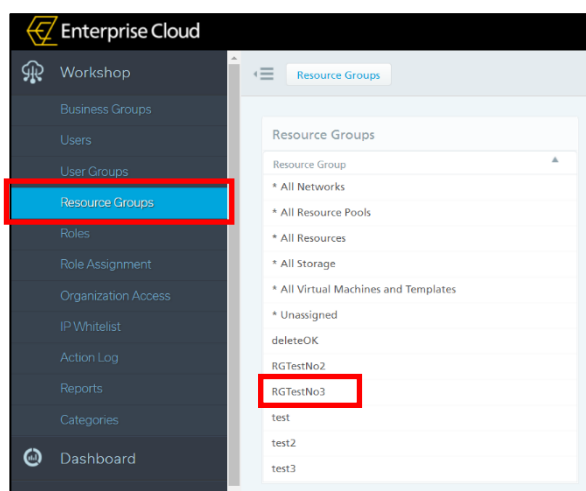


シナリオ 3: ユーザーに対して、特定の VM に対するコンソールアクセスのアクセス許可を付与

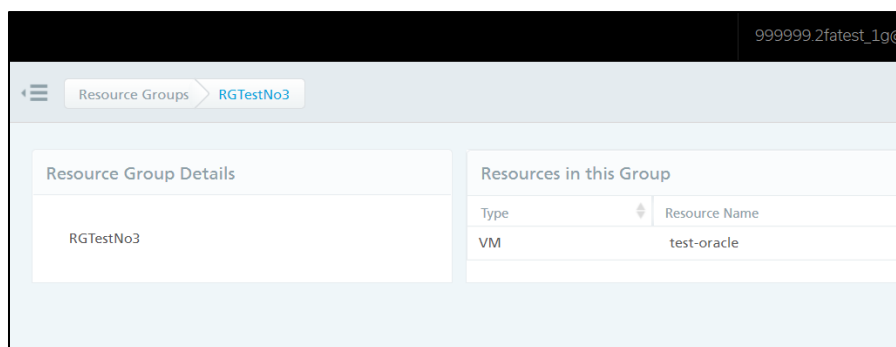
[User Groups]からカスタムユーザーグループを作成します(ここでは[UG_TestNo3]ユーザーグループという名前にします)。詳細な作成方法は、[ユーザーグループの管理] - [ユーザーグループの作成]を参照ください。



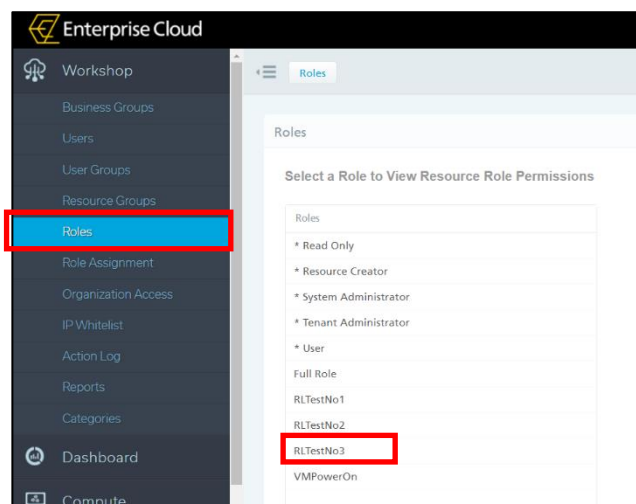
[Resource Groups]からカスタムユーザーグループを作成します(ここでは[RGTestNo3]リソースグループという名前にします)。詳細な作成方法は、[リソースグループの管理] - [リソースグループの作成]を参照してください。



[RGTestNo3]カスタムリソースグループのメンバーにVMを追加します(ここでは[test-oracle]という VM を追加します)。詳細な追加方法は、[リソースグループの管理] – [リソースグループのメンバー管理]を参照ください。



[Roles]からカスタムリソースロールを作成します(ここでは[RLTestNo3] カスタムリソースロールという名前にします)。詳細な作成方法は、[ロールの管理] – [ロールの作成]を参照してください。



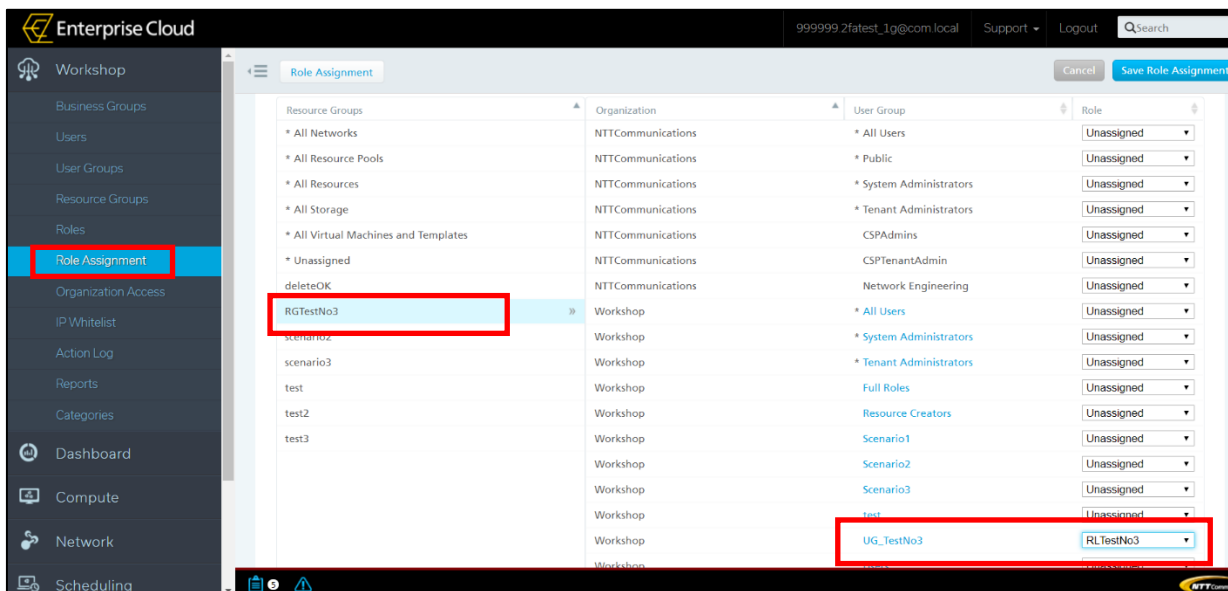
[RLTestNo3]カスタムリソースロールに、下記 8 つのアクセス許可を付与します。

- ① [Resource Categories][Network]-[Permissions][Read]
- ② [Resource Categories][Resource Pool]-[Permissions][Read]
- ③ [Resource Categories][Storage]-[Permissions][Read]
- ④ [Resource Categories][VM]-[Permissions][Read]
- ⑤ [Resource Categories][VM]-[Permissions][Console Access]

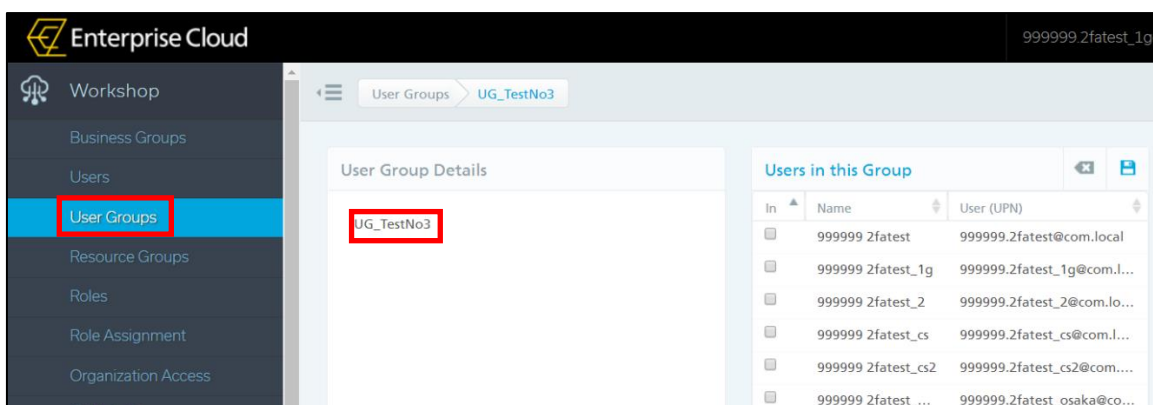
詳細な付与方法は、[ロールの管理] – [ロールの管理]を参照してください。

			999999.2fatest_1g@com.local	Support ▾	Log
Roles					
Select a role to view Resource Role Permissions					
Roles	Resource Categories	Permissions			
* Read Only	Assigned System Operation	Clone			
* Resource Creator	Catalog	✓ Console Access			
* System Administrator	Catalog Fulfillment	Control Guest			
* Tenant Administrator	Catalog Product	Delete			
* User	Category	Export Ovf			
Full Role	Hardware Template	Manage Disks			
RLTestNo1	ISO File	Manage Nics			
RLTestNo2	Network (1/9)	Manage Snapshots			
RLTestNo3	OVA File	Manage Templates			
VMPowerOn	Resource Pool (1/7)	Manage VM Resources			
	Storage (1/8)	Power On			
	System Controller	✓ Read			
	System Operation	Set Metadata			
	System Under Control	Set RID			
	Tenant	Stop			
	User				

[Role Assignment] から、[RGTestNo3]カスタムリソースグループにおける [UG_TestNo3]カスタムユーザーグループに対して、[RLTestNo3]カスタムリソースロールを割り当てます。詳細な割り当て方法は、[ロールの割り当ての管理] - [リソースグループに対するロールの割り当て]を参照してください。



[User Groups]から[UG_TestNo3]カスタムユーザーグループに対して、ユーザーを追加します。詳細な追加方法は、[ユーザーグループの管理] - [ユーザーグループのメンバー管理]を参照してください。

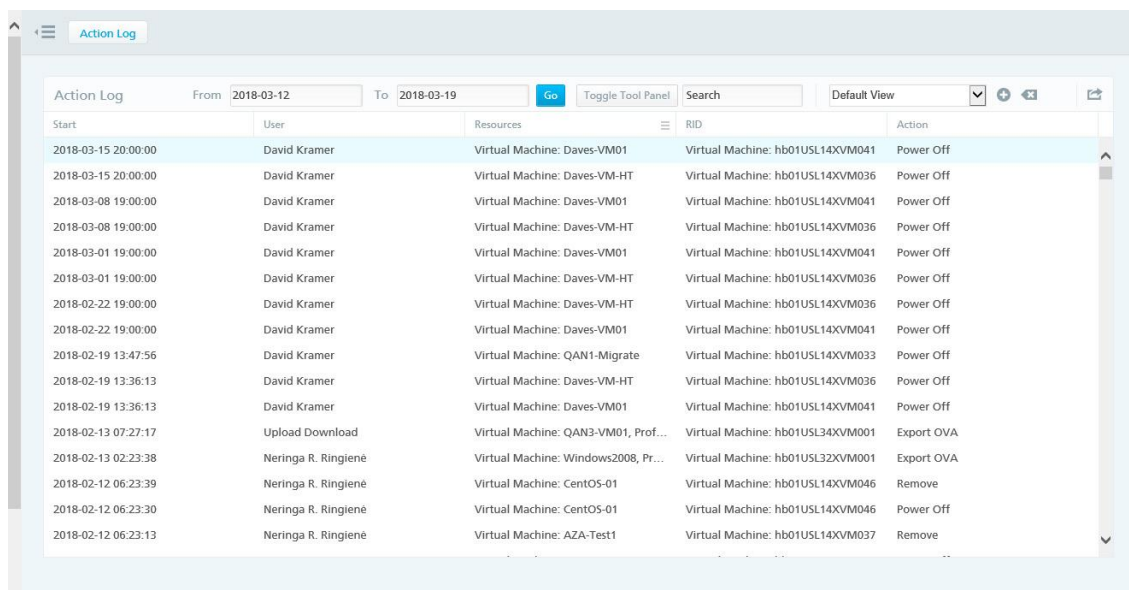


アクションログ

アクションログは、ユーザーにより開始された xStream 内のアクションを表示します。ログの結果は、アクションの開始時刻、実施ユーザー、リソース、アクションによってフィルター可能です。

Note: アクションログは 180 日前まで表示できます。必要に応じてお客様にてログをダウンロードし、保管して下さい。

1. 左ナビゲーションバーで対象のお客様組織名を選択し、[Action Log]を選択します。
2. [From]と[To]に日付を入力し、[Go]を選択します。
3. グリッドカラム内をフィルターするため、[Search]テキストボックスに条件を入力します。



Start	User	Resources	RID	Action
2018-03-15 20:00:00	David Kramer	Virtual Machine: Daves-VM01	Virtual Machine: hb01USL14XVM041	Power Off
2018-03-15 20:00:00	David Kramer	Virtual Machine: Daves-VM-HT	Virtual Machine: hb01USL14XVM036	Power Off
2018-03-08 19:00:00	David Kramer	Virtual Machine: Daves-VM01	Virtual Machine: hb01USL14XVM041	Power Off
2018-03-08 19:00:00	David Kramer	Virtual Machine: Daves-VM-HT	Virtual Machine: hb01USL14XVM036	Power Off
2018-03-01 19:00:00	David Kramer	Virtual Machine: Daves-VM01	Virtual Machine: hb01USL14XVM041	Power Off
2018-03-01 19:00:00	David Kramer	Virtual Machine: Daves-VM-HT	Virtual Machine: hb01USL14XVM036	Power Off
2018-02-22 19:00:00	David Kramer	Virtual Machine: Daves-VM-HT	Virtual Machine: hb01USL14XVM036	Power Off
2018-02-22 19:00:00	David Kramer	Virtual Machine: Daves-VM01	Virtual Machine: hb01USL14XVM041	Power Off
2018-02-19 13:47:56	David Kramer	Virtual Machine: QAN1-Migrate	Virtual Machine: hb01USL14XVM033	Power Off
2018-02-19 13:36:13	David Kramer	Virtual Machine: Daves-VM-HT	Virtual Machine: hb01USL14XVM036	Power Off
2018-02-19 13:36:13	David Kramer	Virtual Machine: Daves-VM01	Virtual Machine: hb01USL14XVM041	Power Off
2018-02-13 07:27:17	Upload Download	Virtual Machine: QAN3-VM01, Prof...	Virtual Machine: hb01USL34XVM001	Export OVA
2018-02-13 02:23:38	Neringa R. Ringienė	Virtual Machine: Windows2008, Pr...	Virtual Machine: hb01USL32XVM001	Export OVA
2018-02-12 06:23:39	Neringa R. Ringienė	Virtual Machine: CentOS-01	Virtual Machine: hb01USL14XVM046	Remove
2018-02-12 06:23:30	Neringa R. Ringienė	Virtual Machine: CentOS-01	Virtual Machine: hb01USL14XVM046	Power Off
2018-02-12 06:23:13	Neringa R. Ringienė	Virtual Machine: AZA-Test1	Virtual Machine: hb01USL14XVM037	Remove

Figure: [Action Log]画面

xStream スケジューラ

xStream スケジューラ機能を使用すると、VM に対するアクションを自動化できます。自動化できるアクションは、[Power Off]、[Power On]、[Reboot OS]、[Shutdown OS]、[Standby OS]、[Suspend]、[Set Business Group]、および[Set Categories]です。




スケジュールされたアクションの管理

スケジュールされたアクションの追加と削除を行うことができます。スケジュールされたアクションの編集はできません。またスケジュールの履歴の確認ができます。

スケジュールされたアクションの表示

スケジュールされたアクションは、スケジュール画面で確認できます。

1. 左ナビゲーションバーで[Scheduling] > [Schedules]を選択します。

- Action Log は、選択したスケジュールの履歴を表示します
-  はスケジュールが成功したことを意味します
-  はスケジュールが失敗したことを意味します
-  はスケジュールが実行中であることを意味します

スケジュールされたアクションの追加

VM インスタンスグリッドからスケジュールを作成します。

Note: UTC 時間を使用してスケジュールされたタスクの時刻を指定する必要があります。

Note: LandScape 毎のスケジュール作成機能は本サービスでは提供されません。

1. 左ナビゲーションバーで、[Compute] > [VM Instances]を選択します。または左ナビゲーションバーで、[Scheduling] > [Schedules] > [+Add Schedule]を選択します。
2. アクションを設定したい VM の横にあるチェックボックスにチェックを入れます。
3. ドロップダウンリストから設定したいアクションを選択します。
4. [Schedule]ボタンをクリックし、スケジュール設定ページに遷移します。

Figure: [New Schedule]画面

5. 選択した VM とアクションが表示されているか確認します。なお、スナップショットの管理機能は本サービスでは提供されません、使用しないでください。

6. 以下を設定できます。

Name: スケジュール名を設定します。

Enabled: スケジュールの有効化、無効化を選択します。

Target Type: [Virtual Machine]を選択してください。

Action: 実行したいアクションを選択します。

Targets: アクションを設定したい VM を VM 名、ホスト名、IP アドレス、RID から検索できます。複数 VM を選択できます。

Start: スケジュールの開始日時を設定します。

Country: 日時を適用する国を選択します。

Time Zone: タイムゾーンを選択します。

Reccuring: スケジュールの繰り返し有無を選択します。

Recur: スケジュールの繰り返しを選択した場合、繰り返し間隔を選択します。

Expires: アクションの実行期限を設定します。

End: スケジュールの終了日時を設定します。

Resource Group: リソースグループを設定すると、設定されたリソースグループに権限のあるユーザーのみスケジュールの管理ができます。

7. [Save Schedule]を選択し、選択した VM とアクションが設定されているか確認します。

スケジュールされたアクションの削除

スケジュールされたアクションの削除はいつでも実施可能です。

1. 左ナビゲーションバーで[Scheduling] > [Schedules]を選択します。
2. スケジュールされたアクションのアクションカラムで[Delete]を選択し、確認します。

ポータルサポート

ヘッダーの[Support]メニューでは、サポートチケットの起票画面へのリンクがある[Service Desk]、xStream ポータルのリリースノートがダウンロードできる[Release Notes]と xStream ポータルのバージョンが確認できる[About]が使用できます。

Note: [User Guide]では、本サービスのユーザーガイドを掲載していません。最新版が必要な場合は当社サポートサイトをご確認ください。

Note: [Training Videos]は提供いたしません。

Note: [Create Support Request]は提供いたしません。Python SDK は使用しないでください。

Note: [OpenAPI]は提供いたしません。使用しないでください。

Note: [Python SDK]は提供いたしません。使用しないでください。

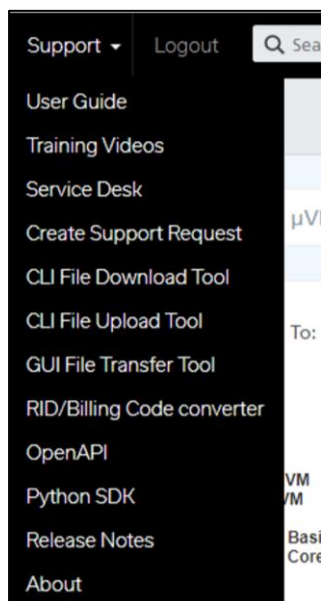


Figure: [Support]メニュー